

事務局長 鈴木 秀 人（羽水高校）

1. 第1回役員会

平成30年5月7日（月）、福井県国際交流会館で平成29年度会計監査および平成30年度第1回役員会を開催し、総会に提案すべき議事を審議しました。

2. 総会・講演会

平成30年6月8日（金）、福井県国際交流会館地下多目的ホールで福井県英語研究会総会および講演会を開催しました。議長は石田洋志先生（福井商業高校）が務められ、全ての議案が承認を得ました。

その後、本会発展のために永年御貢献いただいた、松田新一先生（前英研会長・前進明中学校長）、加藤修先生（前放送テスト部長・県義務教育課主任）、石田洋志先生（前事務局会計・福井商業高校教諭）に感謝状が贈呈されました。

総会終了後、岐阜大学 教育学部 英語教育講座 教授 巽 徹先生をお招きし、「次期学習指導要領を踏まえた授業作りの工夫」と題して御講演をいただき、中・高教員連携による、具体的な授業改善についてのワークショップが行われました。

3. 会員名簿発行

平成30年7月、平成30年度会員名簿を発行しました。22年度から会員名簿作成業務を広報部にお願しておりますが、28年度より小学校の英語活動担当者も掲載しています。年度当初の大変忙しい時期に御尽力頂いた稲葉広報部長をはじめ、広報部には深く感謝申し上げます。

4. 全英連大会

第68回全国英語教育研究大会（全英連滋賀大会）は、「Be Active! ～児童・生徒が主体的に学ぶ英語教育～」を大会コンセプトとして、平成30年11月16日（金）・17日（土）に開催されました。1日目はびわ湖ホールを会場として、総会、立教大学教授 松本 茂氏を招いて、演題「アクティブ・ラーナーを育てる英語教育」での講演会、昼食後、小学校・中学校・高等学校それぞれの授業実演が行われました。2日目はピアザ淡海とコラボしが21を会場として、32の分科会が開催されました。

また県英研からは、田中宏明会長、川田裕貴先生（広報部）、三仙真也先生（研究部）が参加しました。

5. 平成30年度福井県英語教育研究大会

- (1) 主 催 福井県高教研英語部会・福井県中教研英語部会・福井県英語研究会
- (2) 日 時 平成30年11月15日（木）
- (3) 会 場 福井県立丸岡高等学校

(4) 研究主題 「思考力・判断力・表現力を鍛え、自ら発信できる生徒の育成」

(5) 日 程

公開授業 14:15～15:05

◆授業学校 丸岡高校2年2クラス
(文系/理系)

◆授業者 土田 衛 (丸岡高校 教諭)
笠松佳代子 (丸岡高校 教諭)
ジェフェリー・イグナシウス・トビー
(丸岡高校 ALT)

全体会 15:20～16:25

◆講 師 紺渡 弘幸 氏
(仁愛大学 教授)



6. 全英連東海北陸地区英語教育協議会

平成30年12月25日(火)、石川県にて平成30年度全英連東海北陸地区英語教育協議会が開催されました。福井・石川・富山・愛知・岐阜・静岡・三重の7県から各代表が参加し、全英連滋賀大会全国理事会の報告、平成31年度の日程などについて協議しました。田中宏明会長が参加しました。

7. 第37回岩崎賞選考委員会

本年度は1点の応募(個人)があり、平成30年12月28日(金)に福井県立武生高校にて選考委員会を開催しました。選考の結果、受賞には至りませんでした。

8. 第2回役員会

平成31年2月20日(火)、福井県国際交流会館にて第2回役員会を開催し、平成30年度事業・決算中間報告、平成31年度事業計画等について審議しました。



県中教研英語部会

事務局長 八 田 秀 樹（越前市武生第三中学校）

県中教研英語部会では、「英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うための指導と評価の工夫・改善」を研究主題に掲げ、各ブロックや各郡市、各学校で研究実践に取り組んできました。本年度の活動の概要は以下の通りです。

1 6月14日（木） 第1回県中教研英語部会郡市部長研究会（越前市武生第三中学校）

- ・平成29年度事業報告ならびに平成29年度事業計画について
- ・平成30年度県中学校教育課程研究集会、中学校英語セミナーについて
- ・県英語教育研究大会（鯖丹大会）について
- ・各ブロック間の情報交換

2 8月9日（木）、10日（金）平成30年度第42回東海北陸公立中学校英語教育研究会石川大会

（石川県地場産業振興センター）

- ・大会テーマ 「意欲を持って学びに向かう英語教育」
- ・講演会 演題「これから求められるコミュニケーション能力の育成」
～コミュニケーションの本質をとらえて～
講師 金沢大学人間社会研究域学校教育系 滝沢 雄一 教授
- ・参加者数 8名

3 8月10日（金）平成30年度福井県中学校教育研究集会（坂井市丸岡南中学校）

- ・発表者 江南 梓 教諭（福井市鷹巣中学校）
土井内 佑輔 教諭（鯖江市東陽中学校）
齊藤 千花 教諭（若狭町立三方中学校）
- ・参加数 41名

4 10月18日（木） 第2回県中教研英語部会郡市部長研究会（越前市武生第三中学校）

- ・県英語教育研究大会（丸岡高校）について
- ・平成30年度事業経過報告および平成31年度研究主題の検討
- ・各郡市の取り組み（英語セミナー、英検、小中連携など）
- ・平成31年度全国学力・学習状況調査の中学校英語「話すこと」調査に向けて

5 1月31日（木） 第3回県中教研英語部会郡市部長研究会（越前市武生第三中学校）

- ・平成30年度事業報告ならびに平成31年度研究主題と事業計画について
- ・平成31年度県中教研発表について
- ・平成31年度県英語教育研究大会（坂井地区）および全英連三重大会分科会発表について
- ・各郡市における活動状況と課題
- ・平成31年度全国学力・学習状況調査の中学校英語「話すこと」調査に向けて



平成30年度県中教研英語部会郡市部長名及び活動報告


部	部長名	活 動 報 告
福井市部	(中)	<p>本部会は、従来の県中教研集会の発表に向けての授業研究だけでなく、2回のブロック内授業研究会、有志の教員による「授業づくり委員会」が開催した3回の公開授業及び研究会を通して、英語科教員の授業力向上に力を注いできた。ブロック内授業研究会では、事前に日本語版と英語版両方で指導案が示され、当日は多くのALTも参加した。また、その後の研究会も主として英語で会を進め、ALTからも有益な多くの意見が出された。それらは毎日のように行われるALTとのTT授業改善に大いに役立つものとなった。また、「授業づくり委員会」では、授業実践における市・県の第一人者による各2時間連続の授業公開が行われ、若手教員にとってはモデルとなる授業、中堅教員にとっても新たな視点を与えられた機会となった。中学生85名、JTE40名、ALT27名で開催された29回目の英語サマーキャンプも企画委員を中心にしっかり準備・検討の上にしたもので、英語学習のゴールを示し、未来に可能性を広げるすばらしい機会を中学生に与えることができた。</p> <p>【平成30年度活動報告】</p> <p>4/18 第1回中教研福井ブロック英語部会主任会〔至民中〕</p> <p>6/19 福井ブロック中学校教育研究集会〔光陽中〕 (発表者 鷹巣中 江南 梓 教諭)</p> <p>6/26 前期福井ブロック内授業研究会〔松岡中〕 (萩澤摩以子、若杉航平 教諭)</p> <p>7/ 6 第1回授業づくり委員会 若手中心の実践交流会〔足羽中〕</p> <p>8/8・9 福井市英語サマーキャンプ(事務局:大東中)〔福井市少年自然の家〕</p> <p>11/20 第2回授業づくり委員会 鈴木三千弥教諭の2授業と研究会〔社中〕</p> <p>12/13 後期福井ブロック内授業研究会(河上由香教諭〔国見中〕)</p> <p>12/19 第3回授業づくり委員会 佐藤勉教諭の2授業と研究会〔足羽中〕</p> <p>2/27 第2回中教研福井ブロック英語部会主任会</p>

部	部長名	活 動 報 告
吉 田 郡 部	稲葉 雄治 (松岡中)	<p>吉田郡教育研究会の事業として、夏季休業中には郡内中学校のそれぞれの校区ごとに、中学校の英語教育と小学校の英語活動の現状や課題について情報交換を行い共通して取り組むことを確認し、小中の連携を深めた。また小中それぞれの英語の授業を参観し、授業研究会などで活発な意見交換ができた。</p> <p>【平成30年度活動報告】</p> <p>4/19 第1回中学校英語部会主任会</p> <p>5/25 授業研究会 中学3年英語（習熟度別学習）松岡中学校 (授業者 稲葉雄治教諭 杉若航平教諭 Alana Hankerson)</p> <p>6/ 6 授業研究会 小学6年外国語活動 吉野小学校 (授業者 河合佳江教諭)</p> <p>6/22 授業研究会 中学3年英語 永平寺中学校 (授業者 南部和子教諭)</p> <p>6/26 福井地区英語研究会・公開授業 中学3年英語（習熟度別学習）松岡中学校 (授業者 萩澤摩衣子教諭 杉若航平教諭 Alana Hankerson)</p> <p>7/30 永平寺町小中学校連携研修会を開催 小学校と中学校の学習内容などの情報交換を行った。</p> <p>10/30 授業研究会 小学3年外国語活動 御陵小学校 (授業者 大西美司代教諭 Ito Maria Cecilia)</p> <p>11/ 2 第5回授業研究会 中学1年英語・2年英語 松岡中学校 (授業者 杉若航平教諭 山内清美教諭)</p> <p>3/ 6 第2回中学校英語部会主任会</p>
坂井ブ ロック (坂井市・あわら市)	西 健 (金津中)	<p>4/26 第1回英語科主任会（金津中学校）</p> <p>5/16 英語セミナー委員会（磯部コミュニティーセンター）</p> <p>5/25 第2回英語科主任会（金津中学校）</p> <p>6/20 第3回英語科主任会（金津中学校）</p> <p>6/27 坂井地区中学校教育研究集会（金津中学校） 発表者 春江中学校 新谷 俊裕 教諭</p> <p>7/27 坂井地区英語セミナー（磯部コミュニティーセンター）</p> <p>8/10 福井県中学校教育研究集会（丸岡南中学校）</p> <p>10/ 2 第4回英語科主任会（金津中学校）</p> <p>11/22 第1回推進委員会</p> <p>12/25 特別研究会（三国中学校）…3つの研究部会ごとに協議</p> <p>2/ 6 第2回推進委員会</p> <p>3 月 第3回推進委員会</p> <p>平成31年度に「福井県英語教育研究大会」が坂井地区（三国中学校）で行われるため、そのための準備に取り組んできた。</p>

部	部長名	活 動 報 告
坂井ブロック (坂井市・あわら市)	西 康 (金津中)	<p>坂井地区では、『「自分の気持ちや考えを伝え合う生徒の育成」～やりとりを通して伝え合いたいという意欲を高める指導～』という研究テーマ(案)にそって研究している。研究体制づくり、公開授業・研究協議会の実施、研究部会ごとの活動等を行ってきた。なお、研究部会は「授業研究部」「CAN-DO リスト・評価問題研究部」「データ集計・分析部」を組織した。</p> <p>来年度の研究大会に向けた授業づくりに関する取り組みは以下のとおりである。これらの取り組みを契機に、坂井地区の全英語教員が実践・研究を深め、授業力を向上させていきたい。</p> <p>11/14 第1回授業研究部会(坂井中学校)… 1/31の指導案検討 12/25 第2回授業研究部会(三国中学校)… 1/31の指導案検討 ※指導助言：大下教授・加藤主任 1/31 第1回公開授業・研究協議会(坂井中学校) ※指導助言：大下教授・加藤主任 2/14 第3回授業研究部会(春江中学校)… 3月の指導案検討 2/21 第4回授業研究部会(春江中学校)… 3月の指導案検討 ※指導助言：大下教授・加藤主任・山口主任 3/14 第2回公開授業・研究協議会(春江中学校) ※指導助言：大下教授・山口主任</p> <p>※平成31年度 福井県英語教育研究大会 坂井大会 平成31年10月29日(火) 坂井市立三国中学校</p>
大野市部	広瀬 泰司 (尚徳中)	<p>○第1回大野市学校教育研究会(学びの里「めいりん」) 4月13日 分科会結成、研究主題および研究計画、当面する課題についての意見交換 ○第2回大野市学校教育研究会(上庄小学校) 5月1日 分科会長会、分科会予算配分等 ○中学校教育課程奥越ブロック集会(開成中学校) 6月15日 研究授業および授業研究会を通じた研究主題の追求 ○夏季英語セミナー運営研究会(勝山北部中学校) 6月21日 夏季英語セミナーの企画運営全般についての協議 ○奥越中学校夏季英語セミナー(学びの里「めいりん」) 7月31日 奥越地区の中学校全学年を対象とした英語活動の実施 ○第3回大野市学校教育研究会(開成中学校) 8月1日 小中連携、県立高校入試英検加算、夏季英語セミナー会場などについての協議 ○県中学校教育課程福井県研究集会 8月10日 ○大野市学校教育研究会英語部会研究会(尚徳中学校) 11月7日 県学力診断テストの結果に基づいた市内中学生の到達度の分析</p>

部	部長名	活 動 報 告
勝 山 市 部	中村巳奈男 (勝山中部中)	<p>4年間に渡った文部科学省の「英語教育強化地域拠点事業」の指定が終了した。今年度は「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」を実施し、全ての学校で年間1回の公開授業及び研究会が行われた。中学校の公開授業には他の2校や他市や県外からも授業や研究会に参加し、小学校の公開授業には校区の中学校が授業や研究会に参加し、学校間の連携を図りながら、お互いの授業力向上を目指している。基本的に授業を英語で行い、生徒とインタラクションをしながら授業を進めるスタイルを推進している。</p> <p>○勝山市学校教育研究会英語部会</p> <p>4月20日 年間活動計画、英語教育強化地域拠点事業を受け、今年度の役割分担と取り組みの確認</p> <p>6月21日 中学校教育課程奥越ブロック研究集会 於：大野市開成中学校 ・研究授業および研究討議 (授業者：開成中学校 川田裕貴教諭)</p> <p>6月21日 奥越英語セミナー運営委員会 於：勝山北部中学校</p> <p>7月31日 奥越ブロック夏季英語セミナー 於：大野市大野公民館</p> <p>8月10日 県中学校教育課程研究集会1名参加 於：県立大学</p> <p>1～3学期 公開授業互参観 於：勝山南部中学校、勝山中部中学校 勝山北部中学校</p> <p>1月中旬 第15回スプリングコンテスト(15回目) 生徒の学習意欲の向上と、市全体の基礎力アップを図るため、市内3中学校が学年毎に共通の問題(100問)で、同時期に実施し、成績上位者には英語部会から賞状を出している。 冬休みに出題リストを配り、冬休み後にテストを行う。</p>
鯖 江 市 部	鳥居 和幸 (鯖江中)	<p>今年度も、平成29年度福井県英語教育研究大会(鯖丹大会)に向けて取り組んだ研究テーマ「自分の気持ちや考えを生き生きと伝え合う生徒の育成」のもと、授業の質と教師の指導力向上に努め、中身の濃い研究実践に取り組んだ。また小学校からの英語教育の強化に伴い、今年度も市内三中学校の英語教員による出前授業を、それぞれの校区の全小学校で実施する等、小学校との連携の更なる強化に努めた。</p> <p>(1) 研究実践 市授業研究会 中央中学校 田中祐衣教諭・ALT 1年 Unit 3 6月15日(金)</p> <p>(2) 研究発表 中教研ブロック及び県の研究集会において、東陽中学校の土井内佑輔教諭が発表</p> <p>(3) 小中連携 小中における授業研究の案内を、市内全ての小中学校に送付し参観を呼びかけ、意見交換を行ったり、中学校英語教員による小学校での出前授業を実施したりするなど小中連携を強化し、小学校から中学校へのよりスムーズ</p>

部	部長名	活 動 報 告
鯖江市部	鳥居 和幸 (鯖江中)	<p>な移行がなされるよう努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の外国語活動授業研究会への積極的な参加 中河小学校 藤田奈央教諭・ALT 11月28日(水) 3年 Unit 7 ・ 6年生対象に中学校英語教員による出前授業の実践 (学期に1回)(3学期は、5年生対象に実施) <p>(4) 丹南地区英語セミナー (担当 南越地区) 鯖江文化センター 8月22日実施</p> <p>丹南地区の教員が協力し、より質の高いセミナーの実施をめざした。当日は、とても和やかで活発なセミナーとなった。</p> <p>今後も、授業の質と教師の指導力の向上、生徒の英語力の向上に努め、授業研究を地道に進めていきたいと考えている。</p>
丹生郡部	林 明宏 (朝日中)	<p>おもな活動</p> <p>4月16日(月) 丹生郡学校教育研究会 @朝日小学校</p> <p>6月14日(木) 第1回郡市部長会 @武生第三中学校</p> <p>6月28日(木) 鯖丹・南越ブロック研究集会 @東陽中学校(4名参加)</p> <p>8月10日(金) 県中学校教育研究集会 @丸岡南中学校(2名参加)</p> <p>8月22日(水) 丹南中学生英語セミナー @鯖江文化センター (6名参加、※生徒は14名参加)</p> <p>10月 4日(木) 県中学校英語弁論大会 @県教育総合研究所 (2名参加、※生徒は1名参加)</p> <p>10月18日(木) 第2回郡市部長会 @武生第三中学校</p> <p>11月15日(木) 県英語教育研究大会高校大会 @丸岡高等学校</p> <p>11月20日(火) 県教委指定英語力向上事業授業研究会 @朝日中学校</p> <p>授業者: 街道泰宏 教諭(朝日中)</p> <p>参加者: 県内小中学校教員・県教委指導主事 計18名のうち部員8名。</p> <p>【おもな協議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 板書等で情報を多く与えることのメリット、デメリットは何か。 ・ 場面設定と発問の工夫によって、言語活動に必然性をもたせるにはどうすればよいか。 ・ 生徒がアイコンタクト・リアクションなどを自然に行う、すなわち知りたい、伝えたいと思う活動にするにはどうすればよいか。 <p>12月 3日(月) 県教委指定英語力向上事業授業研究会@朝日小学校(5名参加)</p> <p>12月 4日(火) 授業研究会@宮崎中学校</p> <p>授業者: 渡邊喜代美教諭(宮崎中)</p> <p>参加者: 11名</p>

部	部長名	活 動 報 告
丹 生 郡 部	林 明宏 (朝日中)	 <p>【おもな協議内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の必然性を感じさせるためには場面設定をどのようにすればよいか。 ・班活動における机間巡視の在り方。間違いをその場で指摘することの是非。 ・学習活動のゴールをどこに設定すればよいか。 ・単元構想の大切さ。 <p>1月31日（木）第3回郡市部長会@武生第三中学校</p>
越 前 市 ・ 今 立 郡 部	水谷 善長 (武生三中)	<p>1 活動概要</p> <p>○授業研究会は年3回あり、今年度は、越前市では万葉中と武生二中坂口分校、南条郡・今立郡では河野中で実施された。全英語教員が1回以上参加し、公開授業と研究会を通して授業力の向上を図った。</p> <p>○夏季休業中には、英語教員研修会を実施し、県教委義務教育課指導主事を講師に迎え「全国学調英語予備調査の分析と授業改善の方向性」について講義していただき、来年度学調に向けて大いに参考になった。</p> <p>○本年度は、南越ブロックが英語セミナーの実行委員長と事務局を担当した。事前の準備会議から前日の打ち合わせや準備、当日の運営など、鯖丹地区と南越地区の英語教員が協力して企画・運営を行った。当日はALT28名、生徒88名の参加を得て開催され、最初は少々緊張気味であったが、歌やゲーム、クイズ、劇などで英語を使う姿が多く見られ、英語でのコミュニケーションの楽しさを実感していた。</p> <p>2 活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月18日 第1回英語科主任会（武生三中） ・5月30日 第1回英語科授業研究会（万葉中 橋本教諭） ・6月 8日 県英語研究会総会・講演会（国際交流協会） ・6月28日 中教研鯖丹・南越B研究集会（東陽中） ・7月27日 南越地区中学校英語科夏季研修会（武生三中23名参加） ・8月9～10日 東海北陸公立英語教育研究大会石川大会（2名参加）

部	部長名	活 動 報 告
越前市・今立郡部	水谷 善長 (武生三中)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 月 1 0 日 県中教研集会英語部会（丸岡南中） ・ 8 月 2 2 日 丹南地区英語セミナー（鯖江市文化センター） ・ 1 0 月 4 日 県中学校英語弁論大会（県教育総合研究所） ・ 1 0 月 3 1 日 第 2 回英語科授業研究会（武生二中坂口分校 網田教諭） (同時開催：第 2 回英語科主任会) ・ 1 1 月 9 日 南越地教委連管内英語科授業研究会（河野中 樫尾教諭） ・ 1 1 月 1 8 日 県英語教育研究大会（高教研）（丸岡高校） ・ 平成 3 1 年 2 月 8 日 第 3 回英語科主任会（武生三中） <p>3 成果と課題</p> <p>「互いに気持ちや意見を伝え合い、考えを深めようとする生徒の育成～4 技能を総合的に育成する指導の工夫～」という研究主題の下、来年度の中教研发表に向けて、万葉中学校と坂口分校を中心に「リスニングを軸とした指導と評価の工夫～伝え合うためのステップとしての聴く力の育成方法～」を研究テーマに掲げた。年 3 回の授業研究会では、発表に向けての研究テーマをより具体的に焦点化し、特に「リスニングによるインプットを、より自然なスピーキングやライティングのアウトプットに繋げ、如何に表現力を育成するか」について意見交換し、実践研究を進めた。</p>
南条郡部	樫尾 基司 (河野中)	<p>南条郡は、授業研究会や研修会、また丹南ブロック夏季英語セミナーなど越前市・今立郡部と一緒に活動している。南条郡独自では、平成 3 0 年度南越地教委連管内英語教育研修会が河野中学校で行われ、「互いに気持ちや意見を伝え合い、考えを深めようとする生徒の育成」をテーマに授業研究をした。3 年生の Unit 6 で「ノーベル平和賞受賞者」のことを知り、接触節を扱う授業だった。越前市からも A L T を含む多くの先生方が参加され、授業後の研究討議も活発に進められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5 月 3 0 日 第 1 回南越地区授業研究会（万葉中） 6 月 2 8 日 中教研鯖丹・南越ブロック研究集会（東陽中） 7 月 2 7 日 南越ブロック英語科夏季研修会（武生第三中） 8 月 1 0 日 県中教研集会（坂井地区内中学校） 8 月 2 2 日 鯖丹・南越ブロック夏季英語セミナー（鯖江市文化センター） 1 0 月 3 1 日 第 2 回南越地区授業研究会（武生第二中坂口分校） 1 1 月 9 日 南越地教委連英語科授業研究会 及び南越地区授業研究会 (河野中)

部	部長名	活 動 報 告
敦賀市部	木原 茂子 (角鹿中)	<p>敦賀市英語研究部会は、市内5校の英語科部員で構成されている。敦賀市小教研英語活動部会との連携を重視しながら、教員の教科指導力の向上と生徒の英語力向上を目指す研究を進めることができた。主な活動については、以下の通りである。</p> <p>1 活動概要</p> <p>(1) 授業研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者 松陵中学校 道関教諭 学年/单元 2 学年 Unit7 部員18名が参観。コミュニケーションのためのやりとりを重視した授業の在り方について研究討議。 <p>(2) 二州地区中学校英語セミナー開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敦賀市南公民館にて、中学3年生 60名、ALT 15名、JTE 15名が参加。①名刺交換②ALTによるプレゼンテーション③クラフトタイム④Show & Tell⑤クイズの5つの内容で活動した。ALTとの英語によるコミュニケーションに楽しく取り組む姿が見られ、会場は和やかな雰囲気に包まれた1日であった。 <p>(3) 小中連携での授業参観および授業についての討議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校英語会との連携により、各中学校校区毎に公開する小学校の英語科の授業を、中学校の教員も参観し、合同で研究討議をした。(10月～1月) <p>2 活動実績</p> <p>4月9日 第1回中教研部会「年間活動計画協議及び部会組織や行事の役割分担」〔中央小学校〕</p> <p>5月21日 第2回中教研部会 英検についての取組〔角鹿中学校〕 4技能向上のための授業づくり研修（グループ毎に）</p> <p>6月18日 第3回中教研部会 英語セミナーの計画 〔角鹿中学校〕</p> <p>6月25日 嶺南ブロック集会〔三方中学校発表〕</p> <p>8月2日 二州ブロック英語セミナー〔敦賀市南公民館〕</p> <p>8月10日 県学校教育課程研究集会 参加</p> <p>10月15日 第4回中教研部会 全国学調英語科「話すこと」調査について視聴覚部会との合同研修〔角鹿中学校〕</p> <p>11月19日 第5回中教研部会 敦賀市教研一斉授業研究会〔松原小学校〕 小学校英語科（5年）授業参観および合同授業研修会</p> <p>12月13日 ALTによるクリスマス キャロリング〔市内中学校〕</p> <p>1月22日 第6回中教研部会 授業研究会指導案検討 〔松陵中学校〕</p> <p>2月18日 第7回中教研部会 授業研究会、反省とまとめ、来年度への課題と提言〔松陵中学校〕</p>

部	部長名	活 動 報 告
三 方 郡 ・ 三 方 上 中 郡 部	中村 和浩 (三方中)	<p>【平成30年度活動報告】</p> <p>4月 ・ 中高一貫教育連携クラス年度始め打ち合わせ会議 ・ 中高連携授業打ち合わせ（美方高・美浜中・三方中・上中中） ・ 三方中、美浜中に美方高校より乗り入れ授業開始</p> <p>5月 ・ 英語力向上事業にかかる協力校連絡協議会（三方中） ・ 校内公開授業（三方中）</p> <p>6月 ・ 中教研嶺南ブロック研究集会 発表（三方中） ・ 前期校内研究会 公開授業（美浜中）</p> <p>7月 ・ 美方高校英語科教員 三方中・美浜中に出張授業実施（2年生） ・ 校内公開授業（三方中・美浜中）</p> <p>8月 ・ 県中学校教育研究集会 発表（三方中） ・ 第1回教科教育研究研修会 ・ 小学校英語・英語活動研修会参加（美浜中）</p> <p>9月 ・ 三方中、美浜中に美方高校より乗り入れ授業開始 ・ 校内公開授業（美浜中）</p> <p>10月 ・ 第59回県中学校英語弁論大会 参加（三方中・美浜中） ・ 英語力向上事業三方小・みそみ小公開授業参観（三方中） ・ 校内公開授業（三方中・美浜中） ・ 英語力向上事業公開授業に向けての事前指導案検討会（三方中）</p> <p>11月 ・ 美方高校体験入学（三方中・美浜中2年生） ・ 校内公開授業（三方中・美浜中）</p> <p>12月 ・ 英語力向上・中学校教科教育研究会公開授業・研究会（三方中） ・ 小学校英語・英語活動研修会参加（美浜中）</p> <p>1月 ・ 中高一貫クラス英語研究発表会</p> <p>2月 ・ 第3回教科教育研究会・協議会</p> <p>3月 ・ 中高連携クラス年度末打ち合わせ会議 （美方高・美浜中・三方中・上中中）英語科中高連携授業</p> <p>今年度から始まった小学校での英語科の学習を踏まえ、小学校の学習内容を理解し、スムーズな接続ができるよう連携を積極的に進めた。また、美方高校及び各町教育委員会との連携を進める中で、地域に根差した新しい小中高連携の取り組み方を模索することができた。夏休みの研修では、嶺南の東ブロックが英語力向上事業の研究テーマとして共通で掲げている「自己表現を高める指導の工夫」について仁愛大学の紺渡先生に話していただいた。それを踏まえて「英語力向上事業」の公開授業に向けた指導案検討を行い、質の高い言語活動についての理解を深めた。</p>

部	部長名	活 動 報 告
小浜市・三方上中郡部（上中地区）	中島 正二 （小浜中）	<p>【平成30年度 活動報告】</p> <p>4月16日 小浜市教育研究会（英語部会）①</p> <p>5月17日 小浜市英語授業作り研修会</p> <p>6月 4日 小浜市教育研究会（英語部会）②</p> <p>7月31日 小浜市英語授業作り研修会</p> <p>8月16日 若狭ブロック英語セミナー事前打ち合わせ・準備</p> <p>8月17日 若狭ブロック英語セミナー（小浜市食文化館）</p> <p>10月 1日 小浜市教育研究会（英語部会）③</p> <p>10月30日 授業研究会（小浜中学校）</p> <p>11月13日 授業研究会（小浜第二中学校）</p> <p>12月14日 授業研究会（三方中学校）</p> <p>1月23日 小浜市英語授業作り研修会</p> <p>2月 4日 小浜市教育研究会（英語部会）④</p> <p>2月19日 小浜市英語授業作り研修会</p> <p>1年を通して、中中・小中・中高連携授業研究会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小学校の授業研究会に中学校の教員が参加した。 ・各中学校の公開授業に小学校や高校の教員も参観し、研究会を実施した。 ・高校の公開授業研究会に中学校の教員が参加した。 <p>（若狭高校・若狭東高校で実施）</p> <p>また、今年度も部員の研修のため、研究会や研修会へ積極的に参加した。 大飯郡との交流など、小浜・三方上中研究会の発展に部員一同取り組んだ。</p>
大飯郡部	仲野比佐代 （内浦中）	<p>【活動内容】</p> <p>①授業力向上について</p> <p>「中学校教科教育研究会」の研修において、指導案検討と、以下の通り授業公開・事後研修を実施した。</p> <p>日 時 2018年11月22日（木）</p> <p>会 場 名田庄中学校</p> <p>单元名 Unit 5 Living with Robots -For or Against</p> <p>本時の目標 ・「ロボットとの暮らし」について、既習表現を利用して議論に参加し、意見交換しようとしている。</p> <p>（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）</p> <p>・「ロボットとの暮らし」について、自分の主張とその理由となる文を書くことができる。（表現）</p>

部	部長名	活 動 報 告
大 飯 郡 部	仲野比佐代 (内浦中)	<p>②英語セミナーについて</p> <p>小浜市・三方上中郡と合同開催で、以下の通り実施した。</p> <p>日 時 2018年8月17日（金）</p> <p>会 場 若狭おばま食文化館</p> <p>参加人数 生徒：39名、ALT：17名、JTE：8名</p> <p>主な内容 （１）Activity（Self-introduction and Games） （２）Cooking （３）International Time（ALTs introduce their culture）</p> <p>【成果と課題】</p> <p>①授業力向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的で深い学びを創り出す授業づくり」をテーマに授業研究を行った。提案された授業の中では、「必然性のある課題設定」「良いデモンストレーション」「思考が必要な発表」「グループ活動」など、深い学びを促す工夫を随所に見ることができ、参加者にとって良い研修の機会となった。 <p>②英語セミナーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT と一緒に調理をするという活動を設定することにより、必然性のあるコミュニケーション活動を行うことができた。 ・ALT によるプレゼンテーション（International Time）は、実物や PC など効果的な準備がなされており、分かりやすかった。 ・生徒、ALT とも今年度は参加者が多く、活気のある活動ができた。 ・他の行事と重なり参加者が少ない学校もあった。可能な限り 2 年生が参加しやすいようにしていく必要がある。



県高教研英語部会・県高文連英語部会

代表理事 鈴木 秀 人

1. 平成30年度高教研・高文連英語部会役員

部 会 長 田中 宏明 (武生高等学校長)
副部会長 勝木 博一 (嶺南東特別支援学校長)
代表理事 鈴木 秀人 (羽水高等学校教諭)

※ 高教研英語部会は、加盟校英語科主任の先生が理事となっています。

庶 務 清水 慈昭 (羽水高等学校教諭)
会 計 山本 美好 (羽水高等学校教諭)
事 務 局 羽水高等学校

〒918-8114 福井市羽水1丁目302

TEL : (0776) 36-1678 FAX : (0776) 36-1676

2. 予算執行

〔高教研〕 本部より英語部会に445,000円頂き、高教研英語部会理事会・高教研英語部会総会・県英語研究大会の運営費や、『会報』の印刷費、また本年度12月に本県で行われた、第13回全国高校生英語ディベート大会 in 福井の運営費などに充てました。

〔高文連〕 本部より英語部会に186,000円頂き、高校英作文コンテスト(93,000円)・高校英語弁論大会(93,000円)の運営費に充てました。

3. 高教研英語部会理事会

平成30年5月28日(月)、羽水高校第1講義室にて開催しました。議長は科学技術高校 田野裕之先生が務められ、平成29年度事業報告・決算報告、平成30年度事業計画および予算案を審議しました。また、高校再編に伴い、今後の高教研大会発表校のローテーションのあり方について審議しました。その結果、普通高校・職業高校それぞれでまわす従来のやり方ではなく、統一した順番表を作ることによって合意がなされました。また、英語教育研究大会の高校の担当校について、昨年度までに決定したローテーションの確認が行われました。

4. 高教研英語部会総会

平成30年6月8日(金)、福井県国際交流会館にて開催しました。議長は福井商業高校 石田洋志先生が務められ、平成29年度事業報告・決算報告、平成30年度事業計画および予算案、今後の高教研大会発表校を審議し、事務局の「統一した順番表」案は承認を得ました。案自体は来年度に向けて再構成され、提案される予定です。

5. 福井県高等学校教育研究大会 英語部会

期 日 平成30年8月23日(木)

会 場 手寄地区市街地再開発ビル(AOSSA)・福井県民ホール

大会主題 主体的・対話的で深い学びの実現のための教科・科目指導はどのようにすればよいか。

部会主題 実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探究し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことができる生徒を育てるための英語科の指導はどのようにすればよいか。

部会役員 司会者： 西口 佳光（丹生高校教諭 福井県英語研究会 企画部長）

助言者： 岩本 公信（高校教育課指導主事）

澤田 則義（教育総合研究所主任）

発表者： 前田美知恵（足羽高校教諭）

小川 陽平（坂井高校教諭）

記録者： 今井 信義（鯖江高校教諭）

田野 裕之（科学技術高校教諭）

発 表 の 概 要

【発表1】 福井県立足羽高等学校 前田 美知恵 教諭

テーマ 「生徒が主体的に学習に取り組み、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育む」

1. はじめに

1) 学校の紹介

普通科と国際科がある共学の高等学校。普通科には普通コース2クラスと特進コース1クラスがあり、入学時にコース分けを行う。2年次には数名、普通コースと特進コース間で入れ替えを行う。

普通コースは、基礎的な学力を養成することを目指している。学力や男女比を均等になるようクラスを編成している。大学進学から就職まで、多様な進路希望に対応すべく、選択体育や芸術に加えて、「子どもの発達と保育」、「フードデザイン」等の選択科目を3年次に設定している。また、英語や数学で少人数授業を行い、生徒の学力に応じた学習指導を行っている。

特進コースは応用力を養成して、上級学校進学を目指している。2年次から文系と理系に分かれて授業を行ったり、医療・看護系進学希望者への対応として、選択科目に化学と生物を設定したりしている。

国際科は、中国語コースと英語コースが、それぞれ1クラスずつある。

2. 実践内容

1) 学校独自の取り組み

・効率よく時間を使い、集中力をつけさせるための45分7限授業の実施。

- ・学校設定科目「足羽タイム」を週2単位実施。1年次は「足羽ベーシック」という科目名で英語・数学・国語の学び直しをとおして高校の学習につなげ、2年次は、それぞれのコースで増単位として通常の授業を実施し、3年次は「ドリカムタイム」という科目名で、進路別学習を行っている。

2) 英語科での取り組み

- ・普通科では、生徒が主体的に取り組むような仕掛け、手法について、英語科全員で話し合いながら指導に当たっている。普通コースでは、生徒の学力に応じた学習指導として、「英語会話」では、ALTが2名とJTEが1名でチーム・ティーチングを行い、手厚い指導をしている。また、「コミュニケーション英語」では、3年間、少人数授業を行っている。
- ・国際科英語コースでは「実践的コミュニケーション能力」「自分の意見や考えを発信する力」「国内外の出来事に対する積極的関心」を身に付けることを目指し、授業内外において、次のような取り組みを行っている。

① 英語力を高めるための指導

(1) 英語の基礎力を養う

生徒の英語力を高めるための指導として、授業や定期テストの中での単語テストに加えて、総合の時間に年に2回のスプリングコンテストを実施したり、定期テストに合わせて暗唱テストや音読テストを行ったり、授業中に帯活動としてリスニング問題に取り組みせたりしている。また、教室に「週刊ST」や「Asahi Weekly」「EE express」を置き、生徒が英語に触れる機会を増やす工夫をしている。この他にも、生徒の興味を引くような教材を授業に取り入れて読ませている教員もいる。

さらに、英語サロンという教室を、ESS部の活動や、生徒がALTとコミュニケーションを図る場として利用している。

(2) コミュニケーション活動の充実

授業中にペアで話す活動を多く取り入れ、生徒が英語で話すことに慣れさせている。また、できるだけ和やかな雰囲気でするよう指導している。

(3) 英語検定・各種コンテスト

に関しては、英検の2週間前から、放課後に級別の英検対策講座を行っている。また2次面接対策として、英語科教員全員が、昼休みや放課後に1次合格者に対して個別に面接練習も行っている。生徒は、他にも、英語弁論大会、英作文コンテストなどに積極的に参加している。

② 行事で鍛える

(1) 国際交流会館で開かれる「英語セミナー」に参加し、生の英語に触れ、英語を使う機会としている。また、セミナーでのプレゼンの準備を「英語表現」の授業で行っている。

(2) 毎年2回、高大連携授業を行い、大学の授業を体験し、外国語を学ぶ意義を考えたり、大学での勉強を知ったりする機会としている。

(3) 1、2年生英語コースの生徒が全員参加となる校内スピーチコンテストを行っている。英語を使用して、自分の意見を伝えなければいけない状況に生徒をおいている。

③ 国際交流活動

(1) 姉妹校交流で、オーストラリアにあるマリスタ校やアメリカにあるボッセル校との交流を行っている。歓迎式典や文化紹介等を通じて、姉妹校の生徒と英語で交流を行っている。

交流のための練習を通して、英語に苦手意識を持っていた生徒も、学習意欲が高まるなどしている。

(2) 海外語学研修を、2年生の2月に、約2週間実施している。生徒はホームステイしながら姉妹校や現地の学校を訪問して、授業体験や文化施設の見学等を行う。

(3) 「足羽高校ニュージーランド1年間留学プログラム」では、現地の家庭にホームステイしながら現地の高校に通い、単位を取得する。帰国後は留年することなく元のクラスに戻ることができ、3年間で本校を卒業することが可能である。

上記のように、英語科では、授業や授業外で、生徒が主体的に英語の学習に取り組める環境づくりを行っている。その結果、学校行事や国際交流を通して、さまざまな課題を発見し、自ら、意欲的に取り組む生徒も増えてきている。英語科教員は、そういった生徒の英語力を高めるために更にいろいろな仕掛けや手法に工夫を凝らして、日々批判的かつ友好的に話し合いを行って授業改善、指導改善に努めている。

【発表2】 福井県立坂井高等学校 教諭 小川 陽平

テーマ 「英語の基本的な知識・技能の習得と、思考力・表現力を育むための取り組み」

1. はじめに

(1) 学校の紹介

本校は平成26年の4月に開校した総合産業高校である。学校規模は1学年8クラス、全校生徒数は777名で、設置学科は4学科8コースである。

(2) 生徒の学力・進路について

コースやクラスによって生徒の雰囲気や能力が大きく異なるが、全体として英語に対する苦手意識が大きく、英語学習の初期の段階で躓いている生徒がたいへん多くいる。就職試験や大学受験で英語を必要とする生徒がほとんどいないこともあり、多くの生徒が英語に対する学習意欲や目的意識が希薄である。平成29年は坂井地区を中心に6割の生徒が就職し、地元の労働力を支えている。

(3) 英語の単位数と本校英語科の基本方針

コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ（1年3単位、2年2単位、3年3単位 全員が受講）

英語表現Ⅰ（2年2単位、3年2単位 とともに選択者が受講）

時事英語（2年2単位 ビジネスコースの生徒全員受講）

能力差の大きい8コースに対して柔軟に対応することで、全クラス共通して英語の基本的な知識・機能を育成する取り組み、思考力・表現力を育むための取り組みを実践することを基本方針にしている。

2. 実践内容

(1) コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ

・基礎的な知識・技能習得

○音読活動

多様な音読方法の取り入れる（誰と音読するのか、どのように音読するのか）

ICT の活用（デジタル教科書を使った音読）

音読活動の発表（学期に 1 回、クラス全員の前での発表、ALT との個別面接、生徒間評価と教員評価）

○WORD ORDER DRILLS の活用

教科書と併用して文法事項の確認、音読、並び替えの練習

- ・思考力・表現力の育成

○自己表現活動

My Favorite Hero（自分の好きなヒーローについて発表。絵を描かせたり写真やポスターなどを準備させたりすることで、生徒の意欲・関心を高める）

Cool Culture from Japan（ALT の Cool Japan の紹介やジャパン・エキスポの動画を見ることでアニメに様々な日本文化に目を向ける）

ALT へのプレゼン（日本に来て日の浅い ALT にグループで日本の観光地を紹介する。評価には協調性も入れ、タブレットを用いた調べ学習やパワーポイントを用いた発表にも挑戦させる）

（2）英語表現 I

- ・基礎的な知識・技能習得

○多読・多聴活動

タブレットの活用（各学年 3 5 台程度のタブレットと WIFI 環境を利用して、オックスフォードのアウルの WEBSITE で児童書を聞きながら読む活動を 2～3 週に 1 度程度行う）

- ・思考力・表現力の育成

○自己表現活動

Make up an Excuse（主題を忘れたことを追求する先生と言い訳する生徒のダイアログをペアで考えて発表する。対話の始めは定形ワークシートを活用）

Sell a crazy product（珍道具の英語での名前、使い方、売り方を考えて、発表する）

世界の偉人（世界の偉人の情報をタブレットで調べ、構成をを考えて発表する）

トリックアートを説明しよう（トリックアートから何が見えるかを英語で説明するライティング活動）

（3）ビジネスコースの英語

- ・基礎的な知識・技能習得

○外部試験の積極的な活用

全商英語検定 2 級対策（合格者が前年度 1 名から 5 名に増加）

英作文コンテスト参加（全員が参加して 1 名が最優秀賞を受賞）

- ・思考力・表現力の育成

○商業科の専門科目「観光マーケティング」の授業参加

ツアープラン計画と実践（坂井地区の外国人向けのツアープラン作成、プレゼン、案内を ALT が中心に援助する）

3. 今後の課題

① 英語の基本的な知識・技術の定着

英語科全体で音読活動など基本定着を目標にした活動を行っているが、まだまだ不十分である。

② 3年間の英語学習の積み重ね

基礎力強化のため、学習意欲の向上のため、様々な活動に取り組んできたが、3年間を通して段階的に英語力が向上しているとは言えない。今後さらに効果的に英語学習を続けていけるよう工夫したい。

③ 専門コースで扱う英語

専門教科は得意だが英語は苦手という生徒が多くいるが、各コースのカタカナの専門用語を英語につなげることで、英語を学ぶ意欲を高めることができるのではないかという思いがある。教科の枠を超えた英語活動を現在模索中である。

【足羽高校の発表についての質疑応答】

Q：英語コースの授業は、例えば時事英語や異文化理解でどのようなことをされているのか。（藤島高校）

A：異文化理解の授業では、海外の雑誌、新聞等から今話題になっている最新記事を活用して、読解をし、その後、読み取った内容について、自分たちの意見を考えて話し合う時間にしている。時事英語では、教科書を採用しており、その教科書を使って異文化理解と同じような活動をしている。

Q（追加）：総合英語、英語表現と時事英語で3冊の教科書があるという理解で良いか。（藤島高校）

A：1年生では3冊、2年生では英語理解で1冊、My Way という教科書を使用している。英語表現で本校独自の英文法のテキストを使用している。これは英語で文法の説明が書かれているものである。異文化理解では、ALT が見つけた記事や新聞等の記事を中心に使用しているので、特に教科書は使用していない。時事英語では、英語理解とは別の教科書を使用している。

Q：新入生に対して、英語で話させるようにする以前に、何か論理的に話すことができるように訓練していることがあれば教えていただきたい。また、海外の大学に進学している生徒がいるが、それに対して何かサポートしていることがあれば教えていただきたい。（武生東高校）

A：日本語でも自分の意見を論理的に伝えられない生徒もいる。英語科としては英作文を書く時にワークシートを用いて、INTRODUCTION、BODY、CONCLUSION の構成で、自分の意見のメモを書かせ、その後、自分の意見を、辞書を使ったり ALT に助けをもらったりして仕上げるという形で、それを3年間通して続ける中で、自分の意見を論理的に伝えられるように指導している。海外に留学する生徒に対しては、TOEFL の教材を用いて個別に指導をしたり、ビザ取得のためにインターネットを使って、生徒の申し込みの手助けをしたりしている。

Q：いろんな行事をされていて、行事が生徒の次の学習の刺激になって授業を頑張り、また次の行事に向かって頑張るという形になっていると感じた。海外交流や英語セミナーなどの行事を意識しながら授業をされていると思うが、授業の中では、そのような行事に向けて、どのようなことを意識されたり行ったりされているか。（敦賀高校）

A：授業で意識していることは、振り返りをするということである。例えばプレゼンテーションを英語セミナーで行った後には、いくつか発表の内容を活用して、良かった点はどこか、どのような発表の仕方が良いのかなど、動画を用いて振り返りをさせている。国際交流については、授業と関連づけてはいないが、代表の生徒が英語を使って活躍する姿が、他の生徒の意欲を高めるといい影響がある。

Q（追加）：例えば国際交流をされる時に、即興で話をするような場面があると思うが、授業の中

でそのようなことに対応するようなことはされているか。(敦賀高校)

A: 教科書の導入として、教科書に関する写真を見せて、最初の印象を英語で簡単に話させている。その際には、的確な語を選択できるように、辞書を使いつつ即興で話すことをさせている。

Q: ティームティーチングは JTE が1名と ALT が2名とあるが、どのような形で ALT を活用されているか教えていただきたい。(高志高校)

A: 英語会話の授業では、ALT が2名いるので、1クラスを2つに分けて丁寧に指導をし、時には全体で ALT 二人が会話をしているのを聞くといった形で活用している。

Q (追加): クラスを2つに分ける場合は、JTE も2名ついて指導に当たるのか。(高志高校)

A: 担当教員以外の英語科教員の時間が空いていれば、状況によって JTE が2名つくこともある。

Q: 英検というと、新英検に向けての取り組みか、従来の英検に対しての取り組みかを教えて欲しい。(道守高校)

A: 現状では従来の英検に対しての取り組みである。

【坂井高校の発表についての質疑応答】

Q: 様々な取り組みを通じて生徒の英語力を培っていることに感銘を受けた。このような様々な取り組みをされる上で、教員と生徒が、何のためにこの学習をしているのかという目的を共有することが大切になると思うが、教員と生徒との意思疎通の部分も含めて、どのように目的意識を育てているか教えていただきたい。(藤島高校)

A: 英語に対する目的意識はとても低い現状がある。英語科としては基礎基本を大事にしながら、できるだけ、生徒が面白いと感じられる表現活動に力を入れており、自分のことが表現できて楽しい、という実感を持てるような活動を行うようにしている。その中で目的意識を少しずつ改善していきたいと考えている。教員と生徒の意思疎通の部分は、まだ模索中である。

Q: 発表の中で主に取り上げられた取り組みは、主に商業系の内容であったが、その他の学科で実際に同様な活動をされていれば、教えていただきたい。(敦賀工業高校)

A: 今後の取り組みのところで話しした、専門用語にカタカナ英語を対応させて提示するというものは、専門が得意で英語が苦手、という生徒にも、英語が好きになってもらえるように工業の先生のところに、どのような単語なら生徒に馴染みがあるかを聞きに行きリストを作成しているところである。将来的には、このようなものを授業中に少しずつ生徒に教えて考査でも評価できれば、と考えている。

Q (追加): 授業というのは、英語の授業内で、ということか、専門の授業の時間を使ってということか。(敦賀工業高校)

A: コミュニケーション英語の授業を想定している。

Q: WORD ORDER DRILLS を使って、正しい英語を話したり書いたりという訓練をさせていることと思うが、英語が苦手な生徒のモチベーションを高めるために、簡単でもいいから正しい英語を話すために、他に指導していることがあれば教えていただきたい。生徒を相手にして発表させるような活動の際には、聞いている生徒に、ちゃんと聞かせるためにどのようなことをさせ、どのような指導を行なっているか、工夫されていることもあれば、お聞かせいただきたい。(武生東高校)

A: 発表の中では実践例として3つ、コミュニケーション英語の部分で挙げさせていただいたが、どのワークシートでも、ほとんどの英文は与えて、一部のみを空欄にして、生徒の負担感を減

らす工夫をしている。発表中に聞いている生徒に対しては、どの表現活動においても相互評価の評価表を用いて、聞いている間にコメントを書かせたり、個人賞を設定したり、誰の演技がうまかったか、という項目をつくったりして、楽しく活動しながら、発表者に対して関心が向くように工夫をしている。

【助言者からの講評】

・足羽高校の発表について

英語科として、①「英語力を高めるための指導で」②「行事で」③「国際交流活動で」鍛えるという3つの柱に基づき、「実践的コミュニケーション能力を有する生徒」「自分の意見や考えを発信できる生徒」「国内外の出来事に対する積極的関心を持つ生徒」を育てたいということで、育成を目指す資質・能力が明確化され、これは、汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえたものであると言える。また、コミュニケーション能力の育成で述べられていたが、スピーチやプレゼンテーションなど、発信型の「話す」「書く」という技能に焦点をあて、聞いたり読んだりしたことに基づき、話したり書いたりするといった統語的な言語活動を行っているということで、今後、先生方の学校におかれても、このような統合的な言語活動を取り入れた授業改善をしていただきたい。例えば、実際の生活の上では、「聞くこと」だけをやっているということはまずあり得ない。だから、実際の授業中の言語活動においても、一つの領域だけのコミュニケーション活動はあり得ない。必ずいろいろな領域と結び付けた統合的な言語活動を行うことに留意していただきたい。

・坂井高校の発表について

「英語に対する苦手意識が強く、能力差が大きい生徒に対し、基本的な知識・技能の習得と思考力、表現力を育むための取組み」ということで、教科全体で非常に単位数の少ない中で、教科横断的な取組み、大学との連携等、大変努力していらっしゃる姿には頭が下がる思いである。

英語に対する苦手意識が強く、能力差が大きい生徒に対し、基本的知識、技能を定着させていくためには、まず「小・中・高を通した一貫した英語教育を図る。」ということが大切になってくる。指導者が、小学校で学んだ事項、中学校で学んだ事項および、実際に小中でどのような指導を経ているのかを認識、理解することが非常に大切である。高校の先生方が小学校、中学校での指導の状況を把握することができる機会をできるだけ作っていただきたい。小・中・高が一体となって外国語教育を進めていくような体制づくりを充実させていきたい。

6. 第13回全国高校生英語ディベート大会 in 福井

平成30年12月15日（土）、16日（日）、本県で高校生によるディベート大会が行われ、藤島高校が見事準優勝を果たしました。本県の英語の先生方が運営に携わり、高教研英語部会からこの大会運営のために補助金を拠出しました。

● 高等学校

行 事 名 ・ 会 場	委 員
第 5 7 回 高校英作文コンテスト 期日：9 月 2 9 日 (土) 会場：各高校 参加：合計 4 7 6 名 (校内予選を含めると 7 5 6 名) 共催：高文連 後援：県教委・福井新聞社	委員長：吉川 長利 (勝山高) 中井 慶子 (大野高) 松見 理香 (武生東高) 伊藤美智子 (敦賀高) 橋本 洋平 (若狭高) 稲葉百合子 (仁愛女子高) 田中 操 (敦賀気比高)
・コンテスト会場を各高校に設けていただきました。ご協力有り難うございました。 ・各校の参加者数を制限させて頂いておりますが、それより参加希望者が多い場合は校内選考をされている学校もあります。その際には採点をお願いしておりますが、ご協力に大変感謝しております。	
第 5 8 回 高校英語弁論大会 期日：1 0 月 6 日 (土) 会場：福井県国際交流会館 参加：1 部 2 4 名・2 部 1 1 名・3 部 1 名 共催：高文連・ライオンズクラブ 後援：県教委・福井新聞社・福井テレビ	委員長：青山 秀樹 (福井商業高) 西尾 康弘 (道守高) 笠松佳代子 (丸岡高) 高崎久美子 (丸岡高) 吉田 充宏 (高志高) 山口 隆子 (丹生高) 森 三穂 (丹生高) 永田乃理子 (丹生高)
・第 1 部の 1 位と第 2 部の 1 位が、第 1 1 回全国高等学校英語スピーチコンテスト東海北陸ブロック大会 (岐阜大会) に出場しました。 ・ライオンズクラブによる海外派遣生選考会も兼ねています。各部入賞者の中の派遣希望生徒に面接選考会を後日おこない、4 名を決定しました。	

●中学校

行 事 名 ・ 会 場	委 員
第 6 1 回中学校英語弁論大会 期日：1 0 月 4 日（木） 会場：鯖江市文化センター 参加：5 7 名（4 8 校） 後援：県教委・読売新聞社 協賛：コカコーラ	委員長：園井 圭介（三国中） 新谷 俊裕（春江中） 和田 祐樹（鯖江中） 佐藤 義信（武生第六中） 秋田 達也（松陵中）
・上位 3 名が高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に出場しました。 ・今年も多数参加いただきました。熱心な指導を有り難うございました。 ・審査結果が出るまでの時間を利用し、ゲームなどを通して参加者が交流しました。	

中学校英語セミナー

各ブロックが主催する中学校英語セミナーに対し、企画部から活動の補助を行っています。各地域の特性を生かしたセミナーを実施しています。

主催：福井県中学校教育研究会英語部会

共催：関係市町教育委員会、関係市町中学校教育研究会英語部会、福井県英語研究会

後援：福井県教育委員会

◆高校英作文コンテスト委員会

第57回福井県高等学校英作文コンテスト

委員長 吉 川 長 利 (勝山高校)

去る9月29日、本年も無事にコンテストを終了することができました。今年は、開催日が福井しあわせ元気国体の期間と重なったため、人数があまり集まらないことが心配されました。また、今年は台風の接近が多い年で、コンテスト実施日の前日まで台風の行方をはらはらしながら見つめる日々を過ごしました。しかしながらそのような困難な状況の中、おかげさまで今年も大勢の生徒に参加していただくことができました。各学校の先生方をはじめ、関係者の皆様方にまずは心より感謝の言葉を申し上げたいと思います。

さて、今年も語彙力の差によらない生徒一人一人の個性、創造性、独創性で訴えられる作文を書いてもらえるような出題内容に努めました。高校生らしい素朴で素直な視点と日常生活の中の豊かな体験に基づいた作品が数多く見受けられたように思います。

出題形式別にA部門から振り返ってみますと、"Students should join club activities."の課題が、生徒にとって最も身近な話題であったため、非常に多くの生徒がこのテーマで書いていました。この部門は事前にテーマを与えられているため、しっかりと準備をした上でコンテスト本番に臨んでいることが感じられました。このため、テーマに対してどこまで自分の考えを深められたかという点が差となって表れたと思われました。

B部門は、今年も読んでいて楽しく、奇抜な発想と豊かな創造力が発揮された優れた作品が数多く寄せられました。与えられた2つの絵のうちAの絵を選択した生徒は、海の中の大きな本を島に見立てるなど、想像力豊かな作品が多く見られました。スケールの大きなストーリーが目立ったのも特徴的で、人類滅亡が予言された古代ギリシャの書物であったり、地球の破滅を防ぐための方法が記された宇宙人からの贈り物だったりと独創的な場面設定のもとで、登場人物の心情も細かく描写されていました。Bの絵を選択した生徒は、寒々として陰鬱な雰囲気を絵の中に感じ取ったためか、いじめにあって引き籠もりになったりしている若者の日々を辿り、それが何かの出来事がきっかけとなって閉ざされていた心がぽっと開け、その後の明るい人生を歩んだというハッピーエンドの結末へとつながっており読み手の心をほっとした気持ちにさせるものが多くありました。

C部門においては、時期的なこともあり福井国体をテーマに選んだ生徒が特に多くみられました。他県の人々との交流の推進や経済効果、県民の団結力の高まりなどのメリットを挙げる意見が目立ちました。また、車の自動運転の普及の是非を問う課題では、高齢ドライバーによる交通事故等の社会問題の面や産業技術の発展の面などから論理的に意見が書かれていました。コンテストの開催におきましては、各校の英語科の先生方には準備の段階から実施、発送にいたるまで多大なるご協力をいただいております。開催の過程で些細なことでもお気づきのことがございましたら、事務局までご連絡ください。今後ともコンテストの発展のためにより一層のご指導をお願いして今年度の報告にかえさせていただきます。

〈実施要項〉

主 催	福井県高文連英語部会 福井県英語研究会
後 援	福井県教育委員会 福井新聞社 NHK福井放送局
協 賛	財) げんでんふれあい福井財団
趣 旨	本県高等学校生徒の英語力の向上を図り、その発表力を高めることを目的とする。
日 時	平成30年9月29日(土) 午後1時30分から3時まで
会 場	県内各高等学校

〈実行委員〉

【委員長】	吉川 長利(勝山高)	
【実行委員】	中井 慶子(大野高)	伊藤美智子(敦賀高)
	稲葉百合子(仁愛女子高)	田中 操(敦賀気比高)
	松見 理香(武生東高)	橋本 洋平(若狭高)
	Ryan Thornton(羽水高)	William Tjipto(小浜二中)
	Luke Marshall(若狭高)	Matthew Hufana(成和中)
	Sarah Dake(朝日中学校)	John Hagley(鯖江中)
	Douglas Massey(光陽中)	Natanya Williams(南条中)
	Jake Gertz(勝山高)	

[入賞者一覧]

		最優秀賞受賞者	優秀賞受賞者
A 部 門	1年	柚 木 沙 都 (若 狭)	笹 木 咲 里 (武 生 商)
	2年	井 上 未 悠 (丹 南)	松 山 明寿香 (福 商)
	3年	星 原 思 利 (坂 井)	西 千 遥 (科学技術)
B 部 門	1年	島 津 海 晴 (若 狭)	清 水 玲 奈 (武 生 東)
	2年	山 口 希 夢 (敦賀気比)	高 林 奈都子 (仁 愛)
	3年	林 涼 香 (丹 生)	中 村 日 乃 (仁 愛)
C 部 門	1年	宋 欣 苗 (足 羽)	前 川 隼 輝 (藤 島)
	2年	西 浦 航 輝 (武 生)	戸 谷 なつみ (武 生 東)
	3年	柳 優 子 (仁 愛)	廣 部 寿美恵 (武 生 東)

〔参加者数一覧〕

会場	1 A	2 A	3 A	1 B	2 B	3 B	1 C	2 C	3 C	合計	校内選考会 を含む数
勝 山				8	2		18	1	2	31	50
大 野				1			1		3	5	5
藤 島							5	1	1	7	7
羽 水						5			33	38	38
福 商	18	1			3			8		30	50
北 陸				2	2					4	4
仁 愛				3	3	2	3	7	3	21	21
三 国						4			6	10	10
金 津					5			8		13	13
坂 井		14	2							16	16
丸 岡					3			20	2	25	69
科 技			8							8	8
足 羽				11			20			31	31
鯖 江					9	2		7	3	21	21
丹 南		32								32	50
丹 生					2	5		12	7	26	50
武 生					8		6	3		17	17
武 生 東				7	6	8	9	10	7	47	202
武 商	20									20	20
敦 賀					7		3	4		14	14
美 方					1		1			2	2
気 比				11	8		4	8		31	31
若 狭	4	1		5	9		8			27	27
合 計	42	48	10	48	68	26	78	89	67	476	756

丸岡、勝山、福商、丹生、丹南、武生東は校内選考会を実施している。校内選考会を含む数とは校内選考会に参加した生徒全員の数

[各部門最優秀作品]

1 A部門最優秀作品

A Person Who I can't Forget

Sato Yuuki

Wakasa High School

A person I can't forget is my grandfather. Because there are many important memories of him. He died 5 month ago. He was kind, and encouraged people around him. His job was a carpenter. My house was built by him. There are a lot of things that he made. For example, they are my shelf, desk and so on. I am using them even now. He also grew vegetables and fruit. And, he sometimes cooked meals with them. They were very delicious. I loved those made by him. I especially liked watermelon. He gave it to us every summer. I was looking forward to eating it, but we can't eat those this year. Though I am sad, I want to say thank you to him. We took a trip with my grandparents several times a year. We have been to many famous hot springs. We went to Kinosaki Onsen last year. It is a very good place in Hyogo prefecture. When we stayed there, I told him about my troubles. He gave me some good advice. It was useful for me. Because of his advice, my school life is very happy. There are a lot of pleasant memories. I want to meet him even now. If I met him, I would like to talk with him and see his nice smile again. And I want to say "please watch us forever."

Furikake and Rice

Miyuu Inoue
Tannan High School

Furikake and rice is Japanese rice seasoning. That is common on the table in Japan. I cannot forget this food. Put in another way, this food made me who is a my grandfather. I can spend with my grandfather, only seven years. I cannot forget this time.

My grandfather is very charming and who likes fishing and cigaretters. His smile is very cute. So he is smiling with surrounding, too. I cannot go fishing with my grandfather. But, I liked to hear his fishing story. My grandfather often told me stories about fishing. His story was very amusing to me. My grandfather hasn't smoked with me. But, I was smell cigaretters a bitter smell, and I smelled the sea. I like his smells, too.

The happy time continued until I was seven years old. I cannot forget this seven years. He died of cancer. It was cause of cigaretters. I caould not this fact. But I was not cry. First experience was shocked by my childhood. I was join in my grandfather's funeral. I was so shocked that he just stood still there for some times.

Grandfather's knee was a special seat. So, I was sitting on a grandfather's knee. It was my favorite place. It is ten years since my grandfather died. I have a lot of hard times. But, I have eat furukake and rice, when it makes me happy. I one what I am now to him. "Thank you thousand times!" I want to say when I can see my grandfather.

If possible, I would like to meet him again. I want to eat furikake and rice together again.

Mystery Girl

Kotori Hoshihara
Sakai High School

Many people might say that the person who they can't forget is their teacher, friend, or a famous person who achieved a great work. Such a person must have something special and influence many people's life a lot. As for me, the persons who I can't forget is just one girl. I don't know even her name.

When I was an elementary school student, I always played alone in the playground. My family moved many times because of my father's job, and it was not easy for me to make a new friend at a new place. In those days, I was a very shy person. I was alone at school and at home. It was when I was playing on the slide in the playground by myself that I met this girl for the first time. She came close to me and began sliding. Then I moved to the swing, and she also came to the swing. She followed for me, though we did not talk much each other. She was calm and kind. I enjoyed playing on the slide and the swing over and over again with her. I had a very good time. That was the first and last time I saw her. After that, I tried to find her in the playground, but I was not able to see her again.

Several years have passed since then, but I still remember her. That is because she gave me a chance to be sociable. Now, I have a lot of friends and enjoy my school life. Looking back, it feels a little strange to think about how I made friends with someone without knowing her name. If possible, I want to talk about myself and ask her how she has lived so far. She is a mystery for me and she is the person who I can never forget.

The Voice of My True Heart

Miharu Shimazu

Wakasa High School

The alarm clock is ringing. It's the time to get up. I'm sleepy, but I have to go to that boring place. I don't hate going to school especially but don't like it. "Good morning." I said to my mother. "Good morning," she answers. When I started eating breakfast she started talking. "How's everything in school? Do you study hard these days? I think you neglected studying yesterday. You have to study harder to get a good job ---" "Yes, I understand." I left the home without saying anything more. I usually walk to school every day. Of course, I'm alone. I don't need friends. "Friend" is just an annoying thing, I think. "We're forever friends" When I hear the words like that, I feel hatred.

School is a place to study. If I don't talk with anyone, I can focus on studying. It's my usual life. ... I had been able to pass the days until a week ago. "Hi! It's wonderful day, isn't it? How are you, Ritsuko?" Hana, a noisy girl who just talked to me is destroying my usual life. She has many friends in our class. I don't like her because she is always talking trivial matters, like her hobby, her pet and her favorite food. She suddenly talked to me a week ago, and has tried to go to school with me. "What is today's class schedule?" she asks. "Well, I don't remember." I answered only half. Then, she said "You have never looked at my eyes and smiled. Why? I want to become your friend." "I don't want any friends! Don't talk to me from today!" Yes, she will have to dislike me someday. I don't need friends! Hana looked very sad. Then she said "Is it really true voice in your heart?" I thought her words are like a key of my heart. She gave me the key and I should use it now, I thought.

My true heart is --- "I'm sorry, Hana. I was just scared to be disliked by you after being friends. Actually, I want a friend. Please become my first friend." She said "Of course!" I could smile after long time with my friend.

God's Lost Article

Nozomu Yamaguchi
Tsurugakehi High School

In 1998, a book had dropped from the sky into the Pacific Ocean. It's a huge book, about one kilometer. Some countries salvaged the book from the sea and examined it. According to the research, the book seemed to be the design for the whole world.

There were a lot of things that everyone didn't know, such as how the Great Pyramids of Giza were made and the beginning of the universe. People were delighted to be able to know many unknown things. Some people said the book was God's lost article.

But some people discovered one essay in the book.

"At first, I made people as one living thing, but they are split down a lot of groups. They can no longer cooperate together. They were failure. I'm going to make them die out in 1998." People despaired, for they will be massacred by the God.

Many countries met and talked about how to confront the problem. However, many countries criticized other countries each other, and argue each other. So people couldn't cooperate together. One country said, "Though we are usually fighting, we must become one." The word made them one. So they could be one. After the meeting, many countries prepared for the day when the God came in front of us.

The time passed, the day came. The light appeared from the sky and the God appeared. Many countries were looking up at the God. Many countries had their own weapons, and kept shooting at the God. However, it was not damaged. Then the God began to say, "It's amazing! Human beings have become one. I may have been wrong. The extinction of human beings is canceled." So the God had overlooked human beings! The God had returned to the sky with the book. After the happening, human beings became one. Though they have a lot of problems, they decided to cooperate together.

The God added to write in the book after that.

"I have succeeded in uniting human beings by dropping the God's book into human beings world on purpose as scheduled."

The Magic Book

Suzuka Hayashi
Nyu High School

One day, the man was going on a voyage because he heard someone say that there are treasures in the near sea. He decided to treasure hunt. But he didn't know where they are. "I'm tired...! I wonder if I had a treasure map!" He was sleeping before he noticed it. For a while, he was waked up by someone's very loud voice. He was very surprised and he saw in the sea. Surprisingly, there was the huge book floating!! It told him, "Are you looking for treasures?" He answered, "Yes. If you know where they are, please tell me it." The book, "Actually, treasure is me. I'm a Magic Book. I'll fulfill only your one wish." His answer was decided. He was scream, "I want many treasures! For example, jewels, gold bars, and money!!" The Magic Book, "OK. But you should be careful how to use them and you must not tell someone about me."

After that, he got treasures, so he was in high spirits. He built a gorgeous house and employed servants. He suddenly became a rich man. People were doubt him. Someone asked him why he became a rich man. He forgot the Magic Book said to him. He told someone about the Magic Book! Before he knew it, he was sinking in the sea. "Help me! What? Where are my arms? Where are my legs?" His body turned into the Magic Book. In other words, he became the book...

Tree Luck, Seven Hard

So Yonae
Asuwa High School

I think luck is a part of ability. It is because everyone is different from birth. For example, some people are born without parents. Some people are very smart from birth. I think they are unlucky. But I also think they are lucky. It is because the world is fair. You get one thing, and you will lose one thing. On the contrary, you lose one thing, you will get another. There is an old saying in China: "everything is ready, only the east wind." In fact, this east wind is luck. So everyone needs luck. Others will say that you only succeed by luck, not because of your ability. But I do not think so. I think luck is predestined. It is not easy to get. So luck is a part of ability.

Luck is a part of ability, and it is only a small part of ability. The ancients often said, "three points are doomed, seven points depend on hard work". It means that luck alone is not acceptable. We also need to make corresponding efforts. When we want to do one thing, even if we make one hundred percent efforts, we may not succeed. The funny thing is that seventy percent effort and luck will succeed. It also confirms that luck is a part of ability. Sometimes luck is also an important factor in your success.

Finally, I think we should keep good at all times. Luck always favors good people. And remember luck is a part of ability.

The Automatic Driving

Nishiura Koki
Takefu High School

Automation has been a part of our history for a long time. We were able to plow deeper with the inventions of the hoe. The steam engine enabled us to manufacture large amounts of products in a short time. Inventions like these were good; others like the atomic bombs were bad. Then, which does the automatic driving stand? I personally, think automatic driving is beneficial to society, and therefore in favor of it. These are the reason I thought so.

Firstly and obviously, automatic driving will decrease the amount of car accidents. Most of the traffic accidents which occur today are caused by human errors. And machines, as far as I know, never or rarely makes mistakes. Therefore, patting machines as our drivers much better than putting a human one. There is a debate over whose responsible for the accidents caused by automatic driving and the priorities for the robots then they need to sacrifice either the driver or the walker. However, using these debates to ban or prohibit automatic driving is nonsense. It's because the number of lives lost by human drovers will significantly decrease by introducing it. Banning these things is like kids avoiding pills because it's bitter.

The second reason I thought so was the opportunity we will be getting if automatic driving is allowed. Currently, we spend a good chunk of our time going to work and going home. Why not we spend those times efficiently while we leave the driving to the robots? I know whoever reading this has said the phrase, "I don't have enough time". Automatic driving will make that excuse impossible. However, some people might think, "Wouldn't the automation of driving take away the jobs of drivers, and the opportunity?" To answer that, let's look at the past innovations which occurred. Let's take the industrial revolution caused by gasoline engines and steam engines. This innovation looked as if they were a job-taker, but it actually opened up huge markets and employments. Look at how many employees which work at the car industry.

These innovations not only make us convenient but also make jobs. To summarize, I think the benefits of the automatic driving completely outweighs the harm. We will be safe, free and we won't lose our jobs. It's our lazy heart which enabled us to improve, built now systems, and invents things, and we cannot stop its progress. Why not we follow those instincts? Lastly, I want to cite a quote from the bible. "If a man has ears, let him hear." Which I take it as you can't stop people from knowing, inventing, and being lazy.

In Order Not to Lose our Life

Yuko Yanagi

Jin-ai Girls' High School

I really hope that an automatic driving car will spread to elders as soon as possible. My grandfather is 83 years old and is still driving a car to go shopping and to pick me up at my school. I sometimes feel scared when I'm riding in his car, because he isn't aware of a person crossing the roads. A false step at that point could lead to a disaster such as someone's death. However, my family and I can't tell him to return his driver's license. My family expects him to work until night, so he is like a housewife. He needs to go to the supermarket to get ingredients for dinner. If he didn't drive a car, it would be so inconvenient for my family.

The only thing we can do is pray to God that he will not cause a car accident. One day when I was studying at school, I heard someone slam on the brakes, but the car bumped into another car. The class was almost finished, so I checked the type of the car myself. I really worried that the car was my grandfather's. After all, it was not his, so I felt relieved.

An automatic driving car also has a possibility to cause a car accident because of some mechanical troubles, but the number of car accidents must be lower. Therefore, I recommend that elders use an automatic driving system.

In conclusion, as his grandchild, I don't want my grandfather to die in a car accident. Not only he but also others should not lose their life in an accident, so the automatic driving car should be popular in Japan and all over the world.



◆高校英語弁論委員会

第58回福井県高等学校英語弁論大会報告

委員長 青 山 秀 樹 (福井商業高校)

平成最後の県高校英語弁論大会が平成30年10月6日(土)、福井県国際交流会館にて開催されました。

県大会の第1部、第2部の参加資格は全国大会に合わせています。第1部は主に英語圏での生活経験を十分に持たない生徒を対象とし、第2部は一定期間の英語圏での生活経験を持つ生徒も参加できる部門となっています。東海北陸大会へは、第1部と第2部の優勝者各1名が出場します。また第3部は福井独自の部で、職業系学科生徒を対象としています。

第3部の参加者が少なく、困っています。今年は1校から1名だけでした。英語の単位数が12単位以下の学校の先生方は是非、生徒を積極的に参加させるようにお願いします。県大会の入賞の可能性が一番高く、賞状やトロフィーをもらえる絶好のチャンスです。ライオンズクラブ海外派遣生の選考会にも参加できる可能性が高いということでもあり、お徳感がいっぱいです。各学校に事情がありなのはよくわかりますが、英語好きな生徒を是非発掘してください。このままだと廃止せざるを得ません。

第1部には14校から24名の参加がありました。第2部には7校から10名の参加がありました。それぞれの部門の優勝者の原稿は後のページに載せてありますので、ご覧ください。

今年度は平成30年11月11日(日)、岐阜県で東海北陸ブロック大会が開催されました。この大会に、優勝した福井商業の竹内さん、仁愛の坪田さんが出場しました。二人ともに奨励賞を受賞しました。全国大会ができてから今回で12回になります。そのなかで、いままでに本県から全国大会にすすんだのは、第1部で1名、第2部で1名のみとなっています。

今年もご協力ありがとうございました。

1. 大会要項

第58回福井県高等学校英語弁論大会

1. 主催 福井県高文連英語部会 福井県英語研究会
ライオンズクラブ国際協会334-D地区5R
2. 後援 福井県教育委員会 福井新聞社 福井テレビ
3. 日時 平成30年10月6日(土) 午前9時30分より
4. 会場 福井県国際交流会館
5. 委員・審査員
委員 ◎青山 秀樹(福井商高) 永田乃理子(丹生高) 笠松佳代子(丸岡高)
西口 佳光(丹生高) 西尾 康弘(道守高) 山口 隆子(丹生高)
吉田 充宏(高志高) 高崎久美子(丸岡高)

審査員

1 部	大下 邦幸（敦賀市立看護大教授）	Simon Woodgett（県庁）
	長岡 亜生（福井県立大学准教授）	Linh Le（足羽中）
2 部 3 部	吉田 三郎（福井高専教授）	Leah Burkett（三国中）
	野本 尚美（仁愛短大教授）	Micheal Fischer（武生三中）

6. 本年度（平成30年度）参加者数

部 門	参加人数	参 加 校
第1部	24	丸岡、藤島、高志、羽水、足羽、仁愛、福井商業、鯖江、丹生、武生、武生東、敦賀、美方、若狭 14校
第2部	10	藤島、高志、足羽、仁愛、福井商業、武生東、若狭 7校
第3部	1	敦賀 1校
合 計	35	

7. 表 彰

第1位、第2位、第3位…賞状、トロフィーまたは盾
 優良賞…賞状のみ ※優良賞 各部門参加者の半数程度

8. 海外派遣生

- ・入賞者の中から若干名、ライオンズクラブが海外派遣生を選びます。
- ・派遣は来年度の夏休み中約1ヶ月の予定です。
- ・地域によって年齢条件が異なります。

9. 参加資格附則

- 1 部、2 部の部門は全国大会の参加資格に則っております。
 1 部は次の(a)(b)(c)に該当しない生徒となっています。

(a) 満5歳の誕生日以後に、通算1年以上または継続して6ヶ月以上、英語圏（英語を第一言語、または公用語、または公用語に準ずる言語として使用する国、地域）に居住した者。（英語圏詳細については全英連ホームページ参照。）(b) 日本国内、海外を問わず、6ヶ月以上、英語以外の教科に関し、実態として英語による教育を行っている学校（アメリカン・スクール、インターナショナル・スクール、または授業科目の半分以上を英語で教育を行っている学校を含む）に在籍し、その教育を受けたことのある者。(c) 保護者または同居親族に、英語を母語とする者、もしくは英語圏出身の者がいる場合。

2. 入賞者

部門	賞	氏 名	学 校	学年	演 題
第1部	1位	竹内 里奈	福井商業	2	I'll Never Do It Again
	2位	杉谷 昂亮	若 狭	2	Words Are Magic
	3位	風呂 樹	若 狭	2	Whose Life Is It?
	優良賞	熊野 友也	武 生 東	1	No More Christmas
	優良賞	緩詰 千馬	敦 賀	1	Know Suicide
	優良賞	野原菜々子	藤 島	1	Rural Revitalization
	優良賞	城戸 志織	福井商業	2	What Can We Do for Them?
	優良賞	加藤 千菜	鯖 江	2	My Passion, Wadaiko
	優良賞	鈴木 彩日	高 志	1	How Can Women Work More Comfortably?
第2部	1位	坪田瑛美香	仁 愛	3	What Color Is a Banana?
	2位	東 航平	藤 島	1	Looking to Space
	3位	江端 梨乃	福井商業	2	Life
	優良賞	藤井 メイ	足 羽	2	Individual Efforts
	優良賞	ロメロ アンジェリカ	足 羽	2	Discovering Friendship
	優良賞	清水 玲奈	武 生 東	1	A Brave Step Forward
第3部	1位	河瀬 来愛	敦 賀	2	What Colo Moving People
	2位				
	3位				
	優良賞				
	優良賞				

3. 優秀作品

第1部第1位

I Will Never Do It Again

TAKEUCHI Rina

Fukui Commercial High School

I had a bitter experience in junior high school. After entering the school, I made five close friends. We were always together, joking and laughing. However, one day, one of them talked behind another member's back. "I don't like the way Mayu talks. It sounds too girly. She is trying to be appealing to boys. Don't you agree?" At that time, I just thought her voice was unique, but I said, "I agree." It wasn't long before Mayu became the target of bullying in our class. Bad rumors spread, and Mayu became uncomfortable in class. As a result, she was unable to come to school. The bullying escalated beyond my expectation, but I couldn't say, "That's enough." I couldn't help her.

The following year, I was faced with another bullying situation. My close friend, Haru, said to me, "I'm ignored by the other members of my club." She was depressed and didn't know what to do. She sought to find possible reasons why she was disliked, and blamed herself. A few days later, the girls who were bullying Haru came to me, and said, "When you hang out with Haru, you can't talk with your other friends. Isn't it inconvenient for you?" This time I knew what to do. I frankly told these girls, "I don't care. She is a good friend." I stood by Haru.

I think I did the right thing, and I'm proud of myself. Haru overcame her difficult situation. But I know that my decision with Haru does not erase the pain I must have inflicted upon Mayu. My friends and I never talk about that again. I don't know whether or not they feel guilty like me, or have simply forgotten everything.

Bullying only leaves pain, both for the bullied and those doing the bullying. Nevertheless, it happens regardless of gender, age, and nationality. Why do we want to speak ill of others? Why do we agree with others' negative opinions so easily?

I think that low self-esteem is the main reason. In my case, I was insecure about myself and didn't have courage to disagree with others. I worried that I would be disliked if I expressed an opinion different from others. I tried to gain a sense of security by being the same as others and being in the majority. Also, some people try to gain a sense of superiority by speaking ill of others and looking down on them. While those who are content with themselves can see the positive sides of others, people with low self-worth tend to seek out someone's faults. But they should know that confidence gained by comparing themselves to others doesn't last long.

Bullying can ruin others' lives. Even tomorrow, you may be influenced by someone's negative thoughts. When such a time comes, please remember this: instead of being negative, take a chance and try to love yourself more than you do now, because your decisions and actions will eventually develop your confidence. So, let's be brave and do the right thing. Let's express our own opinions and be proud of ourselves. I swear to myself, "I'll never do it again."

What Color Is a Banana?

TSUBOTA Emika

Jin-ai Girls' Senior High School

Let's play a word association game! I will say a word, and then you think of a word which is associated with what I have said. Let me begin. "Banana." What word have you associated? I guess the word many of you associate is "yellow." Am I right?

Now, let me start with a new word. How about "kikoku-shijyo", which means a Japanese child who has lived abroad for some years? What image do you have? "America?" "Full marks on an English test?" Most of you may have a positive image, but your image may not be always correct. Actually, I am a kikoku-shijyo. When I say to my friends that I have lived abroad, many of them look at me enviously. However, when I tell them that the country I have lived is Malaysia, their tone of voice sounds lowered. Another fact about me is that my grades on English tests are actually not so good. Anyway, because of the reactions from my friends, I've realized that people tend to have a fixed image of a particular type of person, which can sometimes be wrong, and I've learned that this idea is called a stereotype.

Most people are bound to have stereotypes, and unfortunately, they often have negative images. One of my friends made me realize that I am not an exception and stereotypes can lead to misunderstandings and hurt feelings. It was when I was talking with my friend and I saw an anime character on the background of her phone. When I saw it, I said to her, "Oh, you like those things?" She must have felt my unconscious stereotyped idea that people who like anime might be nerds. She asked me what was wrong with being a fan of anime characters and she also told me that she was insulted by my comment.

Why do we have stereotypes? I think it is because we hear some information about someone and apply that information to all the people who we believe belong to the same group without trying to see whether it is true or not. We even have stereotypes about Japanese people with whom we share the same language and culture, let alone about people in other countries. For instance, the rumor that French people have a high pride of themselves and that they are unwilling to speak English with visitors discourages some people from traveling there. The image of a developing country like Rwanda in Africa makes us think that it is a poor country and that people there are not satisfied.

Thanks to my friend whom I mentioned before, I can now stop and think if what I hear or what I assume is really true or not. Are French people unwilling to speak English? Not everyone. A French girl who I became friends with in Malaysia, texts me in English. Is Rwanda a poor country? No, it isn't. One of my friends went there and found out that it is becoming rapidly developed and that people there have phones and even Wi-Fi.

Now that we live in a more globalized world, we have more opportunities to interact with different types of people. I'm afraid that having stereotypes may cause misunderstandings, as when my friends saw me as a kikoku-shijyo. I'm afraid that having stereotypes can offend others as I did to my friend who likes anime, and in the worst case, having stereotypes can bring about unnecessary conflicts. How can stereotypes be eliminated? It is easy. Communicate with a lot of people! I believe communication is one of the keys to establishing good relationships. Communication enables us to learn something we haven't known before and to break stereotypes.

So what color is a banana? It is true that bananas look yellow, but are bananas inside yellow? Also, the fact that bananas are yellow doesn't tell you their taste. The banana in front of you may taste sweeter than you think. How can we know the real color of the bananas and their sweetness? Of course, we should peel their skins and eat them. Then, how can we understand other people correctly? Communication helps us peel and taste them and let go of the stereotypes we may have.

Moving People

KAWASE Rai

Tsuruga Senior High School

What do you think is the most important thing in our life? Money? A house? Studying? I think "human contact" is the most important. How do you feel when a friend helps you study? Or when friends listen to your problems? Probably, you feel glad. However, when I go to places where there are many students, I often see friends not talking face to face. Instead, everyone is using their smartphones. I bet you have done this too! I think the cause is SNS. On my phone there are many apps like Instagram or Line or twitter. I think everyone uses these apps because you can see many interesting things. But, we shouldn't do this! We need to talk face to face and interact more.

I am in a marketing class for tourism. We go to events in Tsuruga City in order to interact with the community.

One time a lot of foreign tourists came to Tsuruga on a Diamond Princess Cruise. My class went to meet them, but we can't speak good English, so we were all nervous. When the tourists came off the boat they approached us with a smile. I tried to talk to them, but I forgot grammar and missed words and made many mistakes. It made me feel very frustrated. English is so difficult! I can never say what I want. It felt like there was a huge distance between me and the foreign tourists. And I thought that I couldn't communicate with them well. It was very frustrating.

But to my surprise many of the tourists gave me and my classmates' hugs. And, when one of the other volunteers saw my frustration, he said to me, "You don't speak perfect English but you should use words that you know and try to say what you want." Both of these events gave me a warm feeling. I felt courage and I felt I really wanted to welcome the tourists to Tsuruga. I tried talking to the tourists again.

That day the tourists told me "Your English is good!" "Your smile made me happy." But it was not their words that helped me. I think what helped me is seeing their eyes and interacting with them. Speaking to them helped me be able to tell my mind. Hugging them helped the distance between me and them shrink. I couldn't understand everything they said, but because we had human contact I was able to become confident. My mind changed, and seeing their happy smiles made me happy. I couldn't have noticed it if I wasn't talking to them directly.

This event taught me the importance of human contact. We can grow by talking to people and interacting directly. That day, I grew confident. It is meaningful to feel the expression by looking directly at others. When using SNS we can't see faces, so we can't feel strongly. The next time you are with friends, don't look at your phone. Enjoy human contact. Through human contact, we can understand each other better.

◆中学校英語弁論委員会

平成30年度福井県中学校英語弁論大会報告

委員長 園 井 圭 介 (三国中学校)

去る10月4日、無事に第61回福井県中学校英語弁論大会を終了することができました。各校ともに学校祭や秋季新人大会によりご多忙な中での校内選考や発表準備となったと思います。おかげさまで今年も55名の参加となりました。また、全参加者の中には2年次に各地区の英語セミナーを経験した生徒が多いように思われ、各地区の先生方のご尽力を感じました。各校の先生方をはじめ、関係者の皆様にまず、心より感謝の言葉を申し上げたいと思います。

さて、今年の発表者の内容について見ると、社会的な時事問題よりも、身近な話題からの主張という作文が多く見受けられたように感じます。また、ジェスチャーやパフォーマンスよりも内容重視の主張が多かったように思います。

優勝を勝ち取った武生第一中学校、湯本さんは笑顔とテンポのよい英語で会場の雰囲気を変えました。内容は日本の伝統ある着物と文化や歴史について、アメリカの有名な歌手やアロハシャツを例に出しながら話してくれました。これから彼女が目指す着物とその未来について考えさせられる内容でした。

2位となった光陽中学校、酒野くんは留学生との淡い青春の話について感情を込めながらしてくれました。最後には"A Whole New World"を歌い、会場の雰囲気を変えました。

同じく2位の春江中学校、舟塚さんの発表は身近な「おじいちゃん」と取り上げたものでした。おじいちゃんが彼女に影響を与えたものはチャレンジ精神や強さ、そして優しさでした。彼女のおじいちゃんへの素直な思いが心に響くものでした。

この他にもユーモア溢れ、会場の雰囲気を明るいものにしてくれた発表も多く、関わっていただいた先生方のご尽力が伝わってきました。今年度も審査では長時間に渡り、お待ちいただく結果となりましたことお詫び申し上げます。また次年度への課題としていきたいと考えております。入賞者3名は11月28日に行われた高円宮杯全国大会英語弁論大会に参加しました。武生第一中学校、湯本さんは27位という成績を残してくれました。英語弁論大会の運営にご協力頂き、ありがとうございました。

【入賞者】

優勝	湯本 怜子 (武生第一中学校)	Kimonos Are Like Pizza
2位	酒野 直紀 (光陽中学校)	To My Whole New World
2位	舟塚 悠希 (春江中学校)	My Ojiichan

Kimonos Are Like Pizza

Takefu Daiichi J.H.S.

Reiko Yumoto

What do you think about kimonos? The graceful design and beautiful patterns always make me happy. Actually, I think kimonos are like pizza. Wait...what does that mean? Let me tell you a story to explain.

I have loved kimonos since I was a little girl. My family has owned a kimono shop for three generations, so I've always been surrounded by them. I've always loved watching customers smile because of our products. During summer vacation this year, I often helped my parents at the store. We recently started selling products online. I packed one order even more carefully than usual. It was from a customer in Canada, and inside was a hanten, a traditional short winter coat. I was so excited to share traditional Japanese clothes with someone in another country.

That order reminded me of last year, when I went to Kyoto. At the time, I was happy when I saw many people wearing kimonos and enjoying sightseeing. I was especially excited because many people from foreign countries were wearing kimonos. They all looked so happy and graceful. However, when I talked about this with my ALT last semester, she said, "That sounds so nice! I want to try wearing a kimono, too, but it's not so easy for me as an American."

Why is it not so easy? Is it because wearing a kimono is a little complicated? Her answer was not simple. "When you wear traditional clothes from different cultures, do you care about that culture's history? Some people in America think that you don't. Therefore, it can seem rude and disrespectful."

"Rude." "Disrespectful." What cold and strong words. I could understand her words, but I could not understand their meaning. That night, I did research at home. That's when I learned about "cultural appropriation". But what does that mean? Here's an example.

I think many people know Katy Perry. She's a very popular singer in the United States. However, do you know about her performance at the American Music Awards in 2013? She designed a stage with many Japanese images. After the performance, many people claimed that she didn't respect Asian cultures. They even said she used different cultures just for fashion. This meant that she was appropriating Asian cultures. Katy apologized and said that she loves Japanese culture, so she wanted to share it. Sure, her "kimono-ish" costume was a little modern, but for me, her show was simply impressive and breathtaking. What's wrong with trying something new? There was nothing offensive to me as a Japanese person, and I'm sure there are many other Japanese people who agree.

After we talked, I thought about the world's different cultures. They are always affecting each other and always changing. In my English textbook, there is a story about aloha shirts in Hawaii. Now, aloha shirts are a symbol of Hawaiian culture, but I was surprised to learn that they were originally made from Japanese kimonos. In that case, Hawaiian people didn't just wear kimonos - they changed them! And today, people around the world love aloha shirts. Kimonos are special, but that doesn't mean that they can only belong to Japanese people. I remember someone on SNS said, "Is there any rule that only Italian people can enjoy pizza?" To me, kimonos are like pizza - everyone

has a right to enjoy them!

As a girl from a kimono shop, I think clothes exist to make people happy. My next goal is to help foreign customers by writing some explanations of traditional kimono patterns in English. For example, did you know that "asanoha," or hemp leaves, represent healthy growth for children? I hope explanations like this will make more people interested in kimonos. However, maybe you're still thinking, "Can I wear a kimono if I'm not Japanese?" I'm here to tell you that we don't care about that. As long as you like kimonos, you're "unconditionally" in our crew. Let's wear kimonos with a more playful mind and rediscover this precious culture!

Thank you.

To My Whole New World

Koyo JHS

Naoki Sakano

Four months ago, when I said, "I will challenge myself to do the speech contest," all my friends and teachers were surprised, and asked me, "you are?" since my English level at that time was bad. Three months ago, when I was chosen to be the speaker for my school, they were shocked, and said, "you were?" because my English level at that time was still pretty bad. But now, when they see me making a speech in English, none of them say anything anymore. Let me tell you a story about an ordinary boy whose life was changed through learning English.

I was struck without warning when I first saw her. Jessica was a 14-year-old girl from Florida. As spring was ending, she suddenly showed up at our school and was with us as an exchange student. I was interested at first sight, but I had no idea what to say to her. Thankfully, soon after, I saw a poster for the speech contest and immediately thought, "That's it!" I quickly applied for it. People were skeptical when I told them I wanted my speech to be about her, wondering what I would do or say. I began visiting Jessica's classroom every day after lunch and we talked about all sorts of things; school life, cultural differences, and ourselves, it was great. We only talked for ten minutes at a time, but my English improved rapidly.

After a while, I had become a better English speaker and was able to express more of my feelings, but I got carried away. One day in July, I worked up the courage and invited Jessica to go see a movie with me on the weekend. She asked me, "Just you and I?" I blushed and admitted, "Yes." She told me that she couldn't. I was devastated until she explained her reasons. I thought it was a normal thing in the U.S. for teenage boys and girls to go out alone together. But she told me that really only happens in the movies, and that most parents don't let them do that. I was pretty embarrassed, but I learned the word "stereotype" from this conversation. To all the JTEs and ALTs out there I want to ask you to help students learn to avoid stereotypes so that we can make better connections with people from around the world.

Near the end of July, I knew Jessica would have to go home. I wanted to have a final special memory of our time at school together, so I made a plan. From P.E. class, I knew Jessica was good at swimming, and a few days before she left, I challenged her to a race in the school pool. Once again, she asked, "Just you and I?" but this time she agreed and chose the time. It was during second period Math, and I didn't think my teacher would let me skip his class, but miraculously the principal was on my side and we were able to race!

To make a long story short, I lost the race; but it's okay because it was fun and it made her smile. In the end, I was happy that during my time with Jessica, I was able to talk to her and become good friends. I learned many things from her, like how to overcome stereotypes.

My friends and teachers used to stereotype me as an underachiever. But look at me here and now. Loving someone and becoming a good English speaker let me surpass the expectations of the people around me. And all of this brought me ---

"A whole new world. A new fantastic point of view. No one to tell us no, or where to go, or say we're only dreaming. A whole new world."

My Ojiichan

Harue J. H. S.

Yuki Funazuka

"Come on, Yuki! I know a good place to see cherry trees." My grandpa was holding the car door open for me with a big smile. "O.K., Ojiichan. I'm coming." I loved going for drives with him. I dashed so hard to get to the back seat of my family's silver car. "Where shall we go for lunch? You can see the cherry trees over there. Aren't they beautiful? Do you want to have some sweets?" I want to introduce my grandfather to you and why I want to be like him.

My grandpa has curly hair, glasses, big ears like a monkey and smells like peach yogurt. When I was young I thought he was very tall but actually he is very short. He took my brothers and I everywhere. We often went to gyu-don restaurants. He was happy just to watch us enjoy ourselves eating. He also studied Chinese. Whenever he was in the car, he practiced saying words with a CD. "Nihau. Nihau ma." Twenty-five years ago, he worked in Taiwan. Also, his company in Japan welcomed Chinese trainees every year. He liked to speak Chinese to build friendships with them. He also took us and his Chinese friends sightseeing. He always had a camera hanging from his neck because he liked taking photos of us with fantastic scenery. He enjoyed cooking too and made us curry and oden. When he made it, he only used his right hand.

You may think he is a normal grandpa, but he's a little different. He had an accident in his late teens that caused him to lose his left hand. He must have struggled with everything at first. If I were him, I would say to myself, "What a pity! Why me?" But somehow he continued to be independent. He tried to do many things. He played table tennis, did Shogi, took pictures, and studied computers.

I was inspired by him and I want to try my hardest to do many things, too. I play the piano, volleyball, do Abacus, judo, and kimono class.

One day five years ago something very sad happened. I came home and my father was waiting for me. He said, "Sit here. I have an important thing to tell you. Your grandpa had a brain aneurysm." We went to see him in the hospital. I was shocked. He looked like he was sleeping. He has not woken up since that day.

I want to become like him, but I don't know if I can. I can't do everything with smile like he could. It's harder for me to try new things. When I compare myself to him, I see many differences. However, we have a few common points. He liked taking pictures and he really enjoyed showing them to us. I like to draw illustrations and make people laugh. He studied Chinese to build friendships with Chinese people. I am studying English because I want to understand different cultures. Actually, I am one forth Korean. I have kept this a secret in junior high school, because it caused me trouble in elementary school. Seeing my Ojiichan love a different culture, even though he is not from that culture, helped me accept myself. I want to help people feel accepted, too.

Hey, Ojiichan. I learned from you that smiling is important. You brought me so much joy and we made so many fun memories together. So next, I'll try to show you what I can do. When I become and adult, I'll buy a blue car and I'll open the door for you like you did for me and take you to my favorite places. Ojiichan, are you dreaming of me practicing Chinese in your car with you? Xiexie.



部長 窪 田 乃里子（越前市南越中学校）

日頃より英語放送テスト部の活動に対しまして、先生方からの温かいご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。今年度は全中学校と、高校の生徒を合わせて約25,000人の生徒のために放送テストをご採用いただきました。ありがとうございました。

さて、英語放送テスト部は、今年度4名の新規部員を迎え、27名のメンバーで活動をしてきました。昨年度よりも5名少ない部員となりましたが、メンバー全員が協力し合いながら活動することができました。今年度は、問題作成と録音の会議を午前からに戻し、会議の回数を減らすことで部員の負担軽減に努めました。多忙を極める中で会議等に参加してくださった部員の方々のおかげで、今年度分の作成が全て終了いたしました。ありがとうございました。

また、これまでの問題作成につきまして、常に完璧な作業をしていただいているリンク・コーポレーション（印刷担当）さんと名響社（録音・CD作成担当）さんには、厚くお礼申し上げます。今後とも放送テストをよろしくお願いいたします。

以下、本部会の平成30年度の活動につきましてご報告します。

1. 平成30年度 各問題の出題範囲・発行回数・発送日

種別	対象（発送日）	第1回（5月12日発送）	第2回（11月7日発送）	第3回（1月9日発送）
A	中学1年生	P. 4 Hi, English 1 ～ P. 45 まとめと練習 2 1回のみカラー印刷	P. 46 Unit4 ～ P. 83 Daily Scene 3	P. 84 Unit 8 ～ P.121 Unit 11
B	中学2年生	(NH1) P.122 Daily Scene 7 ～ (NH2) P.49 Presentation	P. 50 Let's Read 1 ～ P. 79 Daily Scene 5	P. 80 Unit6 ～ P. 109 Unit7
C	中学3年生 高校1年生	(NH2) P.110 Daily Scene 7 ～ (NH3) P. 33 Daily Scene 2	P. 34 Unit3 ～ P. 81 Daily Scene 5	P. 82 Unit6 ～ P. 111 Let's Read 3
D	高校1年生 高校2年生	※H30年度より、D問題を発行しない。 ※D部会の活動として、Dの過去問題集を作成する。		

2. 平成30年度 会議実施（一部計画）

・問題形式や活動方針に関する全体会議	3回（6月、11月、2月）
・問題作成会議	9回（夏季・冬季休業中）
・録音および校正会	6回（録音会議は9月、11月、3月の土曜日 ／校正会議は各録音会議の3週間後）
・結果検討会議	1回（正答率の低い問題について検討）
・チーフクラス方針会	4回（必要に応じて随時）

3. 問題作成について

これまで放送テスト部会は、進化・変化し続ける英語教育や試験等への対応も含めて、対話のターン数の増加、問題の語数の増加、推論発問の導入などに取り組んできました。今年度は、中学生用の問題については、語彙や使用場面のバリエーションを増やし、様々な視点からの新しい問題を作成していこうと努めてきました。今後は、生徒が様々な種類の問題形式や場面に対応できるよう、長文問題に記述式（日本語の穴埋め形式）問題を付加することを考えています。記述式の問題を付加することになると、問題作成や印刷、結果検討などにも大きな影響が出ることが予想されるので、部会で協議を重ねながら準備をしていきたいと思っています。

さらに、今後は小学校での英語の教科化への対応として、小学生を対象とした問題作成についても考えていきたいと思っています。そのために、文部科学省からの新教材である『We can!』の内容も参考にし、他の教材や小学生の現状、問題形式などについても部員で協議しながら、準備を進めていきたいと考えています。

4. 過去問題集について

昨年度より、主に高校教員で編集委員を組織し、D問題の過去問題集の販売に向けて、校正などの準備を進めてきました。今年度は、17校の高校で採用していただき、約2100部発行することができました。来年度も2000部以上の申し込みがあった場合は発行する予定です。

5. 結果検討について

本部会は問題を作るだけでなく、その後に正答率やIDI（上位25%と下位25%の正答率の差）の統計を算出し、正答率が低かった問題については部内で検討しています。今年度も3月末に結果検討会議を開き、問題改善に向けて正答率やIDIなどのデータをもとに検討会を行ないます。合本については、昨年度と同様に、データは掲載しますが、正答率の低い問題についてのコメントは掲載しません。

6. 平成30年度 部員および役割分担

No	名 前	学校名	問題作成	その他の役割
1	嶋田 晃士	明倫中学校	B	校正・結果検討
2	松田 祐樹	光陽中学校	C	校正・結果検討、校正アシスタント
3	兼井 智加	附属義務教育学校	A	校正・結果検討
4	高田由紀子	成和中学校	C	校正・結果検討
5	河合 創	大東中学校	B	録音チーフディレクター
6	ハート真由美	大東中学校	A	校正・結果検討
7	窪田 聡美	川西中学校	C	校正・結果検討
8	栗田由紀枝	森田中学校	—	校正チーフ
9	鋸谷 卓磨	社中学校	A	校正・結果検討
10	桑原ゆうき	清水中学校	B	校正・結果検討
11	倉田 真衣	三国中学校	A	問題作成チーフ、校正・結果検討
12	山田 恵莉	武生第二中学校	B	校正・結果検討
13	鈴木 迪	武生第一中学校	A	校正・結果検討
14	木戸美樹子	美浜中学校	C	校正・結果検討
15	坪川 紘子	灯明寺中学校	C	校正・結果検討
16	高松三七子	朝日中学校	A	校正・結果検討
17	福田 泰子	朝日中学校	B	校正・結果検討、チーフアナウンサー
18	太田 萌	万葉中学校	C	校正・結果検討
19	田嶋 由美	丸岡高校	過去問	校正・結果検討アシスタント
20	大村 昭友	武生高校（定）	—	校正・結果検討チーフ
21	内田 冬萌	丹生高校	過去問	校正・結果検討アシスタント
22	森 一生	武生東高校	過去問	過去問作成チーフ、校正・結果検討
23	松宮 利絵	敦賀高校	(C)	校正・結果検討、アシスタントアナウンサー
24	田川真理子	金津高校	(C)	校正・結果検討
25	窪田乃里子	南越中学校	(事務局)	事務局（部長）
26	野崎 恵美	社中学校	(事務局)	事務局（副部長・会計等）
27	伊藤美智子	敦賀高校	(事務局)	事務局（副部長・文書発送等）

部員一同、福井県の生徒のためにがんばります。

長年にわたりまして皆様にお使いいただいている放送テストですが、今後も、様々な要望に応えながら発展していきます。ぜひその一翼を担ってみたいと思う方は、南越中の窪田、または放送テスト部員までご連絡ください。そして放送テスト部員となっただき、持っていらっしゃる能力やセンスを、福井県の子どもたちのために発揮していただければと思います。今後も、今の時代に合った問題作成を心がけていきたいと思いますので、現場の先生方からご意見をぜひお聞かせください。貴重なご意見を参考にしながら、問題改善に努めていきたいと思います。

7. 部員よりひとこと

最後に、部員の方々から寄せられた放送テスト部会の活動などについてのコメントをお読みください。

- 会議には一度しか出られず、申し訳なく思っています。(三国中学校 倉田先生)
- 問題を作っているときは(時間的にも)とても苦しいのですが、できあがると大きな達成感があります。よりよい問題が作れるようになりたいです！(大東中学校 ハート先生)
- 1年目ですが、作成や会議等で、勉強になることがたくさんあります。いつもありがとうございます。(灯明寺中学校 坪川先生)
- みなさんが、お忙しい中でなんとか集まってテストを作っています。県内の学校が、必要としているのか、市販のリスニングテストで代用できるのか、考えなければいけないときなのかもしれないと思います。しかし、問題のレベルや出題形式など、まだこの問題が必要なら、誰かがやるしかないのでしょうね。また、是非、若い先生方にも参加していただきたいと思います。問題作成にかかわることで失う時間よりも得られることもたくさんあると思います。(森田中学校 栗田先生)
- 放送テストに所属して20数年経ちましたが、最近では若い部員がどっと増え、たま～に会議に行っても名前と顔が一致しないという状況になってしまいました。小中連携が叫ばれている昨今、中高連携の場である放送テストは本当に貴重だと思います。問題作りはすごく大変ですが、今の部員の方々にもできるだけ長く続けてほしいと思います。(朝日中学校 高松先生)
- 試験問題を作成する作業は大変苦しいですが、会議で自分の問題が採用される喜びや、先生方と作り上げた際の達成感は大きいです。また、会議で先生方から良問にするためのヒントをたくさんいただけるのは大変貴重な学びの場となっています。今後ともどうぞよろしくお願いします。(朝日中学校 福田先生)
- 今年度はあまり会議に参加もできず、名前だけの登録になってしまい申し訳ございませんでした。ご迷惑おかけします。(附属義務教育学校 兼井先生)
- 今年初めてやってみて、とても勉強になりました。(武生第二中学校 山田先生)
- やはり会議に出ると勉強になるし、できたときは達成感もあると思います。先生方の多忙化を考えると放送テストのあり方も考えていかなければならないですね。(杜中学校 野崎先生)
- みなさん、お疲れ様です。頭がさがります。採用が決まっている講師の先生や新卒の先生を知ってらっしゃる方は、少しずつリクルートの方を…(敦賀高校 伊藤先生)
- いつもお世話になっています。なかなか会議に参加できず、申し訳ありません。私は高校勤務ですが中学校の問題を作成することもあります。確かに時間のかかることかもしれませんが、他の校種のことを再度勉強する機会が頂けます。これは実は減多にない機会だなどと改めて実感

しています。温かい人たちに囲まれて楽しく活動させてもらっています。(敦賀高校 松宮先生)

○放送テスト部員として7年が経ちました。この6年でも、若手の先生の割合が大きくなったように思います。その分、放送テストの英語の質の担保が確保されることが大切だと感じます。ベテランの先生に教えていただきながらも、自分でしっかりと問題を作成できるように、英語力の研鑽に努めなければと思います。(大東中 河合先生)

○会議に参加するたびに、問題作成の難しさを実感するとともに、英語っておもしろいなと感じます。若い先生方の新しい感性にも影響を受けています。いろいろと議論しながら、問題を作成できる時間は英語科教員として幸せです。(南越中学校 窪田)



部長 稲葉芳明（大野高校）

日頃より広報部の活動に暖かい御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

4年前の『会報 第73号』で大幅リニューアルを試みて以来、先生方により一層熱心に読んでいただけるようになったと感じており、部員一同深く感謝致しております。

今年度は、英語研究会の財政悪化による事業見直し・縮小の方針の下、2017年9月発行第40号をもって『英研ニュース』を休刊することと相成りました。従来『英研ニュース』に掲載されていた記事・記録も、『会報』でカヴァーすべく今後努めてまいります。

『会報』では第73号から「英語科紹介」コーナーを復活して、第73号で奥越地区、第74号で坂井地区、第75号・第76号で丹南地区の学校を紹介してまいりました。今年度は敦賀市・三方郡・三方上中郡の学校紹介を掲載致しました。

今後も、会員の皆様の御協力のほど宜しくお願い申し上げます。

1. 平成30年度事業報告

- 1) 福井県英語研究会会員名簿発行（7月、650部）
- 2) 第68回全英連滋賀大会参加
- 3) 『会報』第77号発行（2019年3月、650部）
- 4) 福井県英語研究会ホームページ管理運営

2. 平成30年度広報部員

部長	稲葉芳明（大野高校）
副部長	織田昌宏（大野高校）
部員	森谷町子（大野高校）
	島田敏宏（金津高校）
	木下弥（奥越明成高校）
	川田裕貴（開成中学校）



研究部 活動報告

部長 水 木 毅（武生東高校）

日頃より研究部の活動に対し、ご理解とご協力をいただき誠に有り難うございます。本年度も、中学生用読解教材『リーディングテスト』、問題集『Let's Read』、高校生用読解教材『Reading for Message』、問題集『Let's Read for Message』、および中高橋渡し教材『Bridging』を多くの学校でご利用いただきました。改めてお礼申し上げます。

リーディングテスト委員会では、これまで通り教科書テーマや言語材料に関連したリーディング教材を作成してきました。市販問題にはない内容の面白さ、濃さ、英文量であると自負しております。作成の際は、昨今の入試問題の傾向に対応してやや語数を増やすとともに、設問に工夫を加えて思考を必要とするような問題を作成してきました。生徒の力試しに使用していただいたり、ポストリーディングとして使用して頂いたりなど様々な活用法が考えられます。『Let's Read A,B,C』も例年通り改訂を加える予定です。週末課題としてや長期休暇中の課題、もしくは授業の最初5分に使用していただくなど、様々にご活用いただけたと思います。

また、リサーチ委員会の方では例年通り Skimming、Scanning、Guessing の3種類のリーディング技能養成問題（バラテスト）を作成しました。毎回先生方が創意工夫を凝らして作成しております。生徒の課題として、教材としてご活用下さい。冊子の『Let's Read for Message』では過去に作成したバラテストの中から選りすぐりの作品を種類別に集約しました。どちらの教材も生徒が意欲的に取り組めるものができあがったとの評価を多くの高校の先生方からいただいております。

T E F L 委員会では、まず Bridging に関して若干の修正を加えました。また授業研究にも取り組みました。フォーカス・オン・フォームの考え方に基づいて授業を展開することを目標として研究をして参りました。特に態、不定詞、動名詞、分詞、助動詞の定着を目指したワークシートを作成しています。また、今年度は、T E F L 委員会のメンバーが文法の定着を目指したワークシートを作る際に、どのような点に気がつけたのかの視点についての説明も加える予定です。その説明を読むことで、誰でも自分自身でワークシートが作成できることを願っています。次年度中に発行される合本を是非お読み下さい。

『研究部合本』では、昨年度作成したリーディングテストおよび『Reading for Message』の問題／解説解答の他に、T E F L 委員会において改訂した Bridging の改訂の趣旨やサンプルページを記載しています。

最後に、研究部の活動はほとんどが夜間ですが、作問能力の向上や、授業実践についての省察、悩み事相談、仲間の輪を広げるなどたくさんのメリットがあります。より多くの先生方にこの仲間に加わって頂くことで活動も活性化されます。少しでも興味がおありの方はお近くの研究部員までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

以下、本年度研究部の先生方です。みなさんお忙しい中、熱心に活動していただきました。

平成30年度研究部 部員名簿

研究部（オフィス）

	職	名前	学校名
1	部長	水木 毅	武生東高校
2	副部長	村 昭信	金津高校
3	副部長	辻 智生	敦賀高校

リーディングテスト委員会（嶺北）

	職	名前	学校名
4	委員長	高木 裕代	足羽一中学校
5	副委員長	進士 祐介	高志高校
6	委員(A)	小林 加奈	高志高校
7	委員(A)	澤田 亜紀	足羽中学校
8	委員(A)	伊藤江莉奈	足羽中学校
9	委員(A)	宇原 弘晃	至民中学校
10	委員(A)	源藤 里佳	成和中学校
11	委員(B)	山内 翔太	殿下中学校
12	委員(B)	松田 洋佳	森田中学校
13	委員(B)	江南 梓	鷹巣中学校
14	委員(B)	濱下恵理子	越廼中学校
15	委員(C)	嶋田 剛久	藤島中学校
16	委員(C)	土井内佑輔	東陽中学校
17	委員(C)	和田 重	灯明寺中学校

リーディングテスト委員会（嶺南）

	職	名前	学校名
18	委員	稲田さとみ	美方高校
19	委員	水谷 友梨	若狭高校
20	委員	山口 貴美	敦賀高校
21	委員	安井 智子	美浜中学校
22	委員	中坪 克哉	美浜中学校

リサーチ委員会

	職	名前	学校名
23	委員長	水木 毅	武生東高校
24	委員	清水 慈昭	羽水高校
25	委員	堀口 伸介	足羽高校
26	委員	松見 理香	武生東高校
27	委員	鏑村 明	武生東高校
28	委員	橋本 千宙	藤島高校

TEFL委員会

	職	名前	学校名
29	委員長	牧野 剛士	敦賀高校
30	委員	大橋 夕紀	若狭高校
31	委員	青山 真弓	藤島高校
32	委員	三仙 真也	藤島高校
33	委員	百田 忠嗣	松陵中学校
34	委員	黒川 昌平	三方中学校
35	委員	利内 美樹	気比中学校

◆リーディングテスト委員会

委員長 高 木 裕 代（足羽第一中学校）

<委員の先生方の活躍>

今年度、リーディングテスト委員会は、問題作成者に新たに5名の先生をお迎えし、スタッフ5名、問題作成者18名（嶺北13名、嶺南5名）、計23名でリーディングテストの作成に取り組んでいます。近年、リーディングテスト委員会では、少しでも委員の先生方の負担が小さくなるよう、会議の日程や時間について新たな試みを行っています。嶺南リーディングテスト委員会では、以前は検討会議を12月下旬から3月上旬にかけて、2週間に1回のペースで合計5回ほど開催していました。ですが、この時期は、積雪があったり、進路指導で多忙な時期だったりとということもあり、全員参加の会議を持つことは大変困難でした。そこで、会議開催の時期を、8月から12月にかけて、月1回のペースで合計5回の会議を設定するようにしました。月1回のペースになり、時間にも気持ちにも余裕ができ、メールでのやり取りが増えることで、毎回の検討会議の話し合いが大幅にスムーズになりました。嶺北リーディングテスト委員会でも、同じように開催時期を多少変更しました。昨年までの開催時期は、5月～7月、10月～12月、1月～3月で、この期間中、2週間に1回のペースで検討会議を行っていました。ですが、今年度からは、5月～7月、8月～11月、12月～3月を開催期間とし、3週間から1ヶ月に1回のペースで検討会議を行うことにしました。嶺南リーディングテスト委員会と同じく、会議と会議の間が十分にとれることで、次の検討会議前にメールでやり取りすることが増え、検討会議での話し合いがスムーズになりました。また、開催時間も、以前は18時30分から21時、ときには22時近くまでと、校務が終わってからの会議で、身体的に厳しい中で会議を行っていましたが、今年度途中からは、会議の開催時間を17時～20時としました。17時開始にすることで、学校を出にくい先生もいらっしゃるかと思いましたが、多くの委員の先生から好評を得ています。

<リーディングテスト委員会の活動の様子>

リーディングテスト委員会の検討会議は、グループごと（A：中学1年生、B：中学2年生、C：中学3年生）に分かれ、チーフの先生を中心とし、終始和やかな雰囲気で行われています。委員の中には、鋭い視点で素晴らしい問題を作成してくださる先生が多くいらっしゃいます。また、どの先生も、書籍やウェブサイト、ご自身の経験などから、生徒が興味を持ちそうなトピックを取り上げ、よりメッセージ性の高い問題を作成してくださっています。

すべてのグループに、中学・高校の先生、経験年数の長い・短い先生がおり、検討会議の場は、校種を超えた貴重な意見交換の場にもなっています。リーディングテスト作成の技術は、英語教員に欠かせません。どの先生方も自己研鑽を兼ねて、リーディングテスト作成に尽力してくださっています。リーディングテスト作成に興味のある方、校種・時期を問わず、いつでも大歓迎です。

<リーディングテストについて>

リーディングテストを作成するにあたり大切にしていることは、読み手である生徒に送るメッセージです。生徒に興味を持ってほしいこと、考えてほしいこと、気づいてほしいこと、学んでほしいこと、などを伝えられるような問題作成を心がけています。そして、更に、これらのメッセージの読み取りを期待して、設問を作成しています。設問については下のような視点を大切にしています。

- ・本文に書かれた情報を整理するもの（語彙や新出の言語材料を理解しているか確認）
- ・ストーリーの流れを推測するもの（文字情報からその後の流れを推測できるか確認）
- ・述べられている状況を絵で選ぶもの（文字情報から場面をイメージできているか確認）
- ・メッセージを読み取るもの（筆者や登場人物が英文を通して伝えたいことをつかめたか確認）

また、現場で活用しやすくするために、各回のテスト範囲を、Unit ごとに設定しています。テスト範囲のページ番号を各テストに記載してありますので、授業の進度に合わせて利用しやすくなっています。また、今年度より「全範囲」というテスト範囲をなくし、テスト範囲をより細かく設定したことにより、現場ではより使用しやすくなったのではないかと思います。

<Let's Read について>

リーディングテスト委員会では、過去のテストを冊子にした Let's Read (A~C) を作成しています。毎年改定を行っており、教科書改訂に伴う新出語句や文法事項の配列、トピックの精選にも気を配っています。ぜひ、採用をご検討ください。

<リーディングテスト委員から一言>

○委員の若返りもあり、自分がしっかり問題づくりを教えていけないといけないんだなと最近になって感じ始めています。現実はその逆で、なかなか良いアドバイスもできず、若い教員たちのナイスアイデアに気づかされ学ばせてもらうことばかりです。（森田中 松田洋佳）

○何年やってもリーディングテスト作成は簡単なことではありません。会議で素晴らしい先生方から、的確なアドバイスを多くいただけることが、本当に貴重なことだと実感しながら頑張っています。少しでも多くの先生方にこの素晴らしさを経験していただきたいです。

（東陽中 土井内佑輔）

○会議では、色んな先生方からの長文問題作りのアイデアに刺激をもらっています。テスト作成に関してたくさんご指導いただき、英語科教員として成長できる有意義な場です。

（殿下中 山内翔太）

○グループの先生方が、自分のらない話題や興味についての原稿を書いてくれるため、自分自身の興味の幅が広がります。また、英文の検討では、限られた語彙でどのように表現するかの工夫が授業にも役立っています。また、会議時間の変更は、委員の先生方の負担を大幅に減らしてくれました。これを機に多くの先生方が参加しやすくするなることを祈ります。（藤島中 嶋田剛久）

○月1回のペースで複数の中学校・高校の先生方で話し合ってリーディングテストを作り上げていくことがとても楽しいです。自分では考えられないような話のネタをお持ちの先生が多く、また、自分の英文や設問を良い形に改良していただけるので、非常に勉強になっています。これからも、英語が好きな中学生が増えるような英文を作っていきたいです。（若狭高 水谷友梨）

○どうすれば、自分が伝えたい内容を中学校の学習事項に応じたかたちで、文章にできるか試行錯誤し、問いたい部分をどのように問うか考えることで、高校でのテスト作成に対して新たな視点をもつことができました。また、中学校での学習内容も把握することができるので、校種に限らず全ての先生が力を養える場所だと感じています。（敦賀高 山口貴美）

○高校の先生や違う中学校の先生と一緒に問題を作りながら、情報交換などをするのがとても楽しいです。高校ではこうやって説明をするのか、他の学校ではこの単位ではこんな話を副教材とし

て生徒に読ませているのか！など毎回新しい発見があります。それと何よりも生徒が自分たちの作った教材を楽しみながら読んでくれているのを見ると、一生懸命に検討しながら作ってよかったと思います。

(美浜中 安井智子)

【今年度新メンバーより】

○問題の作成はかなり大変ですが、自分の原案から先生方のアドバイスを頂き、どんどん良い問題になっていく過程で、英文や設問を作成する上で気をつけることやこだわらなくてはいけないところなどを学ぶことができました。今後も沢山勉強させていただきたいです。

(灯明寺中 和田 重)

○委員会では、熱心な先生方とお話をする中で様々なことを教わり、長文問題を作成する基礎を培うことができた。私は小規模校勤務で英語科教員が自分しかいないため、授業のことなども相談できてとても助かっています。

(越廼中 瀧下恵理子)

○自分のテスト作りの参考になればと思い参加しましたが、非常に多くのことを他の先生方から学べるので、参加してよかったと思っています。自分の勉強になると共に、今後は子どもたちの力を更に伸ばせるよう尽力していきたいと思います。

(足羽中 伊藤江莉奈)

○先生方がどのようにリーディング問題を作られているのか、1つ1つ勉強しています。問題の作り方だけでなく、題材のアイデアなどについても、これからも多くの先生方から学ぶ姿勢を忘れず、一生懸命頑張っていきます！

(美浜中 中坪克哉)

◆リサーチ委員会

委員長 水 木 毅（武生東高校）

リサーチ委員会では、本年度も高校生向け読解スキル育成プリント教材 "READING FOR MESSAGE" を作成し、SKIMMING・SCANNING・GUESSING を1組として、7月・9月・12月の年3回お届けしました。お陰様で8校1,232部のご採用をいただきました。以下は本年度の各教材の概要です。

◇SKIMMING

- I 売れない作家へのアドバイス（955語）
- II 久しぶりに戻ってきた故郷での体験（1,123語）
- III ある教師の最後の授業（1,117語）

◇SCANNING

- I ハワイのホテルの紹介
- II ピザ屋のメニュー
- III おいしいミートボールシチューの作り方

◇GUESSING

- I
 - 1. ルール説明からスポーツ名の推測（記述式） 5題
 - 2. 笑い話の状況理解（4択） 2題
 - 3. 文章中にある難語の意味類推（4択） 1題
- II
 - 1. 語の説明からの語の推測（記述式） 3題
 - 2. 笑い話の状況理解（4択） 3題
 - 3. 文章の要旨理解（4択） 1題
- III
 - 1. 語の説明からの語の推測（記述式） 3題
 - 2. 笑い話の状況理解（4択） 2題
 - 3. 文章の要旨理解（4択） 1題

本年度も、プリント教材の他に過去問を精選して作成した冊子"READING FOR MESSAGE"を発行し、6校781冊のご採用をいただきました。各校からの情報によると、冊子は2,3年生を対象に、授業中に読ませたり、週末・長期休業中の課題にしたりしている学校が多いようです。また、プリント教材と同様に、扱っている題材やクイズ感覚で取り組める問題の面白さを評価していただいています。市販の問題集ではまず目にすることのないオーセンティックな英文を提供していると自負しております。また、前回の改訂から4年が過ぎましたので、今年度中に再々改訂を行う予定です。全問題が新しい内容となります。今後とも、よりよい教材作りを目指してまいりますので、プリント教材・冊子共にご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

◆TEFL 委員会

委員長 牧 野 剛 士 (敦賀高校)

今年度の TEFL 委員会では、昨年度に引き続き、「コミュニケーション活動を用いた 4 技能統合型英文法指導の在り方 (Focus on Form)」をテーマに活動を進めています。学習指導要領が改訂されて以来、「英語の授業は英語を用いて」行うことが原則となり、英語によるコミュニケーションを重視したカリキュラム改革、教材開発は進んできてはいるものの、文法指導に関しては、従来型のドリルを中心とした暗記・詰め込み式の授業が続いているという話をよく聞きます。そこで、TEFL 委員会では、知識としての文法ではなく、活動を通していかに文法項目を使えるようになるかに焦点をおいて研究していくことに決めました。今年度は、「態」「不定詞」「動名詞」「分詞」「助動詞」の 5 つの文法項目に絞ってワークシートと指導案を作成し、それらを用いて授業を進めれば目標言語を使えるようになることができるものを目指し、各委員が研究を進めていきました。作成資料から、指導の理念をお伝えできればと考えています。さらに、今年度は TEFL 委員のメンバーがワークシートを作る際に意識したポイントとなるところも、これまで行われてきた先行研究にも触れながら掲載します。合本原稿で発表しますので、文法を教える際、ワークシートを作る際の参考にしていただけたら、と思っています。コミュニケーション活動を通して目標言語の定着を図りたいと思いつながらも、なかなか一歩を踏み出せないでいる先生方の一助になれば幸いです。

Bridging については、一昨年度大幅に改訂を行いました。今年度は、一部修正し、発刊する予定です。Bridging がより良いものとなるよう、Bridging に関してご意見等ありましたら、どんなことでも委員のメンバーもしくは委員長あてに言っていただけると幸いです。

TEFL 委員会は、嶺南を中心に、比較的若いメンバーで活動しています。中学校教員も参加しており、中学校教員側のアイディアもうまく融合させながら研究に取り組んでいます。自らの日々の教育活動に TEFL 委員会活動の内容をフィードバックするとともに、合本を通して福井県の英語の先生方に少しでも有益な研究内容を報告できればと考えています。

〈2018年度 TEFL 委員会 委員 (50 音順)〉

青山 真弓 (藤島高校)	大橋 夕紀 (敦賀高校)	黒川 晶平 (三方中学校)
三仙 真也 (藤島高校)	牧野 剛士 (敦賀高校)	百田 忠嗣 (松陵中学校)
利内 美樹 (気比中学校)		